

2021年度

FD報告書



京都ノートルダム女子大学



はじめに

2021 度は、昨年度に引き続き COVID-19 の感染症拡大のためオンライン授業と対面授業が行われた年である。昨年度は、オンライン授業実施に戸惑うこともあったと思われるが、今年度は、オンライン授業に対する不安感や抵抗感も少なくなり、オンライン授業の良さと対面授業の必要性などを改めて認識する年であった。その一方で、受講する学生の ICT スキルの 2 極化が原因と思われる反応やその対応に苦慮する年でもあった。

2021 年度は委員交代の年であったため、新委員会では FD の定義や実際の学内活動の必要性を確認して活動に臨んだ。その上で、どのような FD 活動を実施するか、全学の教員が参加しやすい方法はどうあるべきかなどについて議論し、計画を立てて実施した。他の委員会やセンターが行う活動との住み分けを意識しつつ、教務委員会や ND 教育センターが企画主催する活動に賛同し、本委員会は共催として協力してきた。また、本委員会が主催する活動に ND 教育センターに共催してもらうなど、委員会の垣根を超え全学的な FD 活動を柔軟に実施していく新たな形を生み出すことに貢献できたと思われる。

この冊子には、1 年間の活動を振り返り評価を行った内容を記載した。まとめてみると反省点や今後の課題が多数みられる。しかしながら、FD 活動への参加教員数は増加傾向であり、一定の効果が得られたものと確信している。掲載しているデータや評価内容をさらなる教育・研究の向上・発展へと役立てていただければ幸いである。最後に、本学教員の FD 活動に対する意識の高さに敬意を払うとともにご協力に感謝を申し上げる。また、オープンクラスの動画撮影、動画資料作成、および配信等、すべての活動にわたって研究・情報推進課職員のひたむきな努力に助けられた。紙面を借りてお礼を申し上げる。

2021（令和 3 年）年度に本委員会が主となって実施した活動は以下のとおりである。

1. 前期オープンクラス（2021 年 7 月 12 日(月)～8 月 31 日(火))、後期オープンクラス（2021 年 12 月 10 日（金）～2022 年 1 月 20 日（木））をオンデマンド配信にて実施した。前期は「1 年次生対象の授業」、後期は「演習を含む授業」とし、目的を明確にして視聴してもらうようにした。配信データは文字データを追加し、提供授業数を限定して視聴しやすくなるよう工夫した。

2. 教員対象 FD 研修会（2022 年 2 月 16 日（水）10：30～12：00）を Zoom で実施した。ND 教育センターの吉田智子教授による「本学の情報教育の現状および本学学生の ICT スキルの到達度を理解・共有し今後の教育改善に繋げる」の講演とブレイクアウトルームを利用して少数グループでの討論を実施した。本学の ICT 教育について教員間で共通理解をするとともに、現在の課題や問題点、改善策を共有する機会を提供した。

3. 大学院生教育評価アンケート（2021年12月10日（金）～2022年1月15日（土））を実施し、結果を取りまとめFD委員の代表者が研究科会議で報告を行った。

4. ND教育センターの実施する前期・後期授業評価アンケート結果を吟味し、データから読み取れる内容をFD委員がまとめ、各学科内で報告するとともに授業改善に役立てるよう依頼した。

5. 大学コンソーシアム京都にFD委員が企画者として参加（2022年1月19日・20日・26日・28日）した。

2022年（令和4年）3月

京都ノートルダム女子大学
FD委員会委員長 加藤 佐千子

（補足）共催として参加した事業

1. ND教育センター・教務委員会・FD委員会 共催 ZOOM

テーマ：「今後の授業デザインを考えるワークショップおよびシラバス作成説明会」

2. ND教育センター主催・FD委員会共催（2021年11月2日）

テーマ：「勉強会:データサイエンス活用カフェ(第3回)」

3. ND教育センター主催・FD委員会共催（2022年3月9日）

テーマ：「“文系” “女子” 小規模大学のデジタル活用と高大接続教育の未来」

2021年度 FD 報告書 目次

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| 目次 | 3 |
| I 2021年度「学生による授業評価アンケート」にもとづく教育改善活動報告 | 4 |
| 1. 授業評価アンケート実施の目的と方法 | 4 |
| 2. 授業評価アンケート結果にもとづく教育改善活動 | 4 |
| 3. 2021年度 学生による授業評価アンケート調査項目・回答形式 | 10 |
| 4. 「学生による授業評価アンケート」集計結果表 | 12 |
| (1) 2020年度後期【全学部】 | 12 |
| (2) 2020年度後期【開講所属別】 | 13 |
| 共通教育科目 / 英語英文学科専門教育科目 / 国際日本文化科専門教育科目 / 現代人間学部共通科目 / 福祉生活デザイン学科専門教育科目 / 心理学科専門教育科目 / こども教育学科専門教育科目 / 生活福祉文化学部専門教育科目 / 心理学部専門教育科目 / 資格科目等 | |
| (3) 2021年度前期【全学部】 | 30 |
| (4) 2021年度前期【開講所属別】 | 31 |
| 共通教育科目 / 英語英文学科専門教育科目 / 国際日本文化科専門教育科目 / 現代人間学部共通科目 / 福祉生活デザイン学科専門教育科目 / 心理学科専門教育科目 / こども教育学科専門教育科目 / 生活福祉文化学部専門教育科目 / 心理学部専門教育科目 / 資格科目等 | |
| II 2021年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告 | 47 |
| 1. 実施目的 | 47 |
| 2. 実施方法 | 47 |
| 3. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題 | 49 |
| 4. 集計結果表 | 50 |
| (1) 【全研究科】 | 50 |
| (2) 【研究科別】 | 51 |
| 1) 人間文化研究科 | 51 |
| 2) 心理学研究科 | 52 |
| III 2021年度「オープンクラス」実施報告 | 53 |
| 1. 実施概要 | 53 |
| 2. 現状と今後の課題 | 55 |
| IV 2021年度「FD研修会」実施報告 | 57 |
| 1. 実施概要 | 57 |
| 2. 現状と今後の課題 | 59 |
| V 大学コンソーシアム京都 第27回FDフォーラム | 60 |
| 第2分科会「オンライン授業における学びの成果をいかに評価するか」報告 | |
| コーディネーター：石川 裕之 委員（「第27回FDフォーラム報告書」より） | |
| 2021年度FD委員会構成員・奥付 | 65 |

I 2021年度「学生による授業評価アンケート」にもとづく教育改善活動報告

1. 授業評価アンケート実施の目的と方法

「学生による授業評価アンケート」は、授業に対する学生の意見を参考にすることで、本学の教育の内容や方法等に関する課題を明確にし、さらなる教育の質的向上を図ることを目的として2008年度（平成20年度）から継続的に実施されてきた。本年度については、前期は2021年7月1日（木）から7月30日（金）まで、後期は2022年1月5日（水）から1月26日（水）までの期間にmanabaを用いて実施された。対象は本年度に学部にて開講されている全授業科目の履修生であった。授業評価アンケートの設問や学部・学科ごとの回答率等のデータについては、章末の「2021年度 学生による授業評価アンケート調査項目・回答形式」および「2021年度 学生による授業評価アンケート集計結果」を参照されたい。

2. 授業評価アンケートの結果にもとづく教育改善活動

教育改善の取り組みは全学、学部・学科、個別教職員など多様な主体によって日常的・継続的・多層的におこなわれている。授業評価アンケートの結果にもとづく教育改善活動についても同様である。そこで本報告書では、本年度にFD委員会が中心となり各学部・学科および関連部署との連携を通じて実施した、2020年度後期および2021年度前期実施の授業評価アンケートの結果にもとづく教育改善活動について報告する。

1) 2020年度 後期授業評価アンケート結果の振り返り

2020年度後期授業評価アンケート結果について、特に学生から「よい評価」を受けた点が何であったかに注目しつつ、FD委員を中心に振り返りをおこなった。下記にその内容を整理したものを記す。

なお、この振り返りの結果はFD委員を通じて各学科等に報告され、今後の教育改善・授業改善の参考とされた。学生からの問題点や課題に関する指摘に対応していくことは、教育・授業改善にとってももちろん重要なことである。しかしそれと同時に、学生からの「よい評価」に注目することで組織や教員が自らの長所に気づき、それらをさらに伸長していくことも教育・授業改善に大きく資するものであると考えられる。これら2つの活用方法を組み合わせていくことで、授業評価アンケートをさらに有意義なものとするができるであろう。

(1) 共通教養科目

a. 自由記述について

- ・「よい評価」として以下のような記述があった。
- ・先生が様々な問題について語って下さったこと。考えることが大切だと何度も言ってく

れた先生は初めてで、私たちのこと、日本の将来のことを考えてくださると感じたこと

- 授業動画が分かりやすいこと
- 質問への素早い返信がなされたこと
- 予習して分からなかったところを授業で埋めるかたちがわかりやすかったこと
- 席替えによって新たな気持ちになれたこと
- 前回の授業のまとめを授業が始まる際、少ししてくださっていたこと
- 資料があって、動画を見ながら書き込んだりできたこと
- 質問の回答が丁寧であったこと
- 発音を先生と一緒にでき、分かりやすいこと
- オンデマンド授業の方が自分のペースで学習することができること

(2) 英語英文学科

a. SUMMARY

- There was a very wide variety of comments, so it is difficult to generalize the responses. However, many comments referred to issues related to online versus face-to-face classes. There were also comments about the use of presentation software in both environments.

b. ONLINE VS FACE-TO-FACE CLASSES

- Comments were divided on the desirability of online lessons compared to face-to-face classes. While recognizing the reason why teachers continued to stay online, some students said they wanted to have more face-to-face classes. They pointed out that they can learn more from each other in the classroom and that it is difficult to provide peer feedback online.
- Teachers conducting online lessons can use tools such as the Project module in manaba to help foster collaboration between students online.
- On the other side of the coin, some students expressed concerns about having face-to-face classes during the pandemic because of small and crowded classrooms or long commutes.
- Teachers should provide alternative assignments or hybrid classes for students who are not able to attend class due to health concerns.
- Some students were confused about when classes were face-to-face or when classes were online. There were also complaints that teachers changed the schedule without enough advance notice.
- Changes to the schedule should be announced by at least 9:00 the day before class.

c. ONLINE CLASSES (manaba, Teams, etc.)

- Some students found the apps difficult to use.
- The University could provide more training and support in this area.
- There were some complaints about teachers' lack of communication about online assignments. For example, in some cases it was not clear when assignments needed to be submitted or not. In addition, some students did not receive responses to questions via email, manaba, or Teams.
- Due dates and notifications should be double-checked. Teachers need to check all lines of online communication regularly. Be aware that students may try to make contact via a variety of channels.
- ONLINE CLASSES Videos cannot be viewed after the deadline, but there were no materials to print out. In addition, some said they wanted explanations in writing not just orally. (Applies to face-to-face classes as well.)
- When possible, teachers should provide written materials to download or distribute printed handouts.

d. USE OF PRESENTATION SLIDES (PowerPoint, etc.)

- There were the usual complaints that slides were difficult to see or went by too fast. One student suggested that presentation slides could be uploaded to manaba before class so that they could be viewed on individual devices."

(3) 国際日本文化学科

a. 選択式設問について

- 【授業の状況】 回答率は「1：そう思う」と「2：そう思う」を合わせればすべての設問において8割を超えており、「1：そう思う」だけでも6割弱から7割弱と、おおむね良好な結果であった。
- 【学習の状況】のうち、授業内容の理解と遅刻・欠席をしないことについては「1：そう思う」と「2：そう思う」を合わせて9割前後と良好な結果であった。
- 【学習成果（社会人基礎力）】 回答率は、設問により回答率にばらつきがあり、知識・理解の向上については「1：そう思う」と「2：そう思う」を合わせて8割以上あり、その他の設問については5～6割程度であった。

b. 自由記述について

- 全般的に「わかりやすかった」「授業内容に興味を持てた」という授業内容についての肯定的な記述がされている。
- 「学生の質問に丁寧に答えていた」「学生のペースを見て授業を進めていた」といった学生

への対応についての肯定的な内容の記述が多かった。回答数自体も多い。

- ・授業形態については、「対面授業がこわかった」という記述があれば、「もう少し対面授業を増やしてほしい」という記述もあった。
- ・授業内容や授業方法、授業形態、教員の対応等についての妥当な内容であり、教員の人格を攻撃するような記述がみられなかった。

(4) 福祉生活デザイン学科 (現 生活環境学科)

a. 自由記述について

- ・「よい評価」として以下のような記述があった。
 - ・グループ発表できた、学生に発表させるのが良かった
 - ・小テストがあって最終テストがしやすかった
 - ・実際に布に触れることができたこと
 - ・ゲームを通して学べたこと。実際に作って学べたこと
 - ・対面とオンデマンドの割合がちょうどよかった
 - ・配布物の資料が分かりやすいこと。丁寧に説明してくれたこと
 - ・コメントの返却があったこと。実践的な授業で分かりやすかった
 - ・ビデオ教材が分かりやすかった
 - ・毎回質問時間があったこと。ゆっくりわかりやすく説明してくれたこと
 - ・レジュメがあったこと
 - ・自分で自由に考える時間が多く取られていて、授業に参加できていると感じられたこと
 - ・オンラインでは、自分で調べながら勉強し、対面ではそれを確認するという形で、インプットアウトプットがしっかりとできたこと

(5) 心理学科

a. 全体的なことについて

- ・設問 1～7すべてにおいて、50%以上が「1 そう思う」に回答しており、全体として良い評価である。

b. 自由記述について

- ・「よい評価」として以下のような記述があった。
 - ・授業の内容が、学生に興味の持ちやすい形で提示されていたこと
 - ・授業により力がついたと実感できたこと
 - ・将来について考えるきっかけとなったこと
 - ・勉強の仕方を教えてもらえたこと
 - ・講義科目でも、自分で取り組めるワークや練習問題が適宜挟まれていたこと
 - ・オンライン授業の動画がわかりやすく、何度も繰り返し見て理解を深めることができたこと

- ・オンライン授業への切り替え、ソーシャルディスタンス、空調・換気への配慮など、コロナ対策・対応が適切になされていたこと

(6) こども教育学科

a. 自由記述について

- ・「よい評価」として以下のような記述があった。
 - ・先生の実際に経験したことなどをエピソードとして聞くことができたこと
 - ・課題が明確であったため、目的をもって調べることができたこと
 - ・スライドも毎回印刷してきてくださったので、授業の振り返りがしやすかったこと
 - ・実習に向けての具体的な話が多く、イメージしやすかったこと
 - ・オンラインではなく対面で進めることが出来たことにより、周りの様子を知ることができたこと
 - ・模擬授業が効果的であったこと

2) 2021 年度 前期授業評価アンケート結果の振り返り

2021 年度前期授業評価アンケート結果について、特に自由記述中における使用機器や設備、環境等に関する学生からの指摘・要望に注目しつつ、FD 委員を中心に振り返り作業をおこなった。さらに振り返りの結果を教務委員会、ND 教育センター、教育支援部、同教務課に報告したところ、下記の対応がなされた。

今回、授業評価アンケートの結果にもとづき FD 委員会と各部署が連携しつつ対応した結果、本学の教育・学習環境のさらなる改善につながったといえる。また、学生の指摘や要望が実際の教育・学習環境改善につながったことで、学生の授業評価アンケートへの積極的な参加を促す効果も期待できるといえよう。

a. 教室の広さについての指摘・要望

【学生からの指摘・要望】

- ・間隔が空けられておらず密になっていた。(共通教育科目)
- ・履修生に対し、教室がせまかった。広い PC のある部屋でかつ PC 持ち込み可にしてほしい。(専門科目)
- ・ソーシャルディスタンスを行うのに適していない教室だったので、あの大人数で行う場合はもう少し広い教室で行うのが良いと感じました。(実践的科目)
- ・対面の教室が小さかったように感じた。(実践的科目)

【対応】

- ・受講者数に対し教室が狭い、もしくは密であるという指摘について、2021 年度は原則として試験定員で教室を配当、また、受講者数が試験定員の 7 割以下になるよう可能な限り検討いたしました。どうしても狭いと感じる学生があったようです。2022 年度の教

室配当においても、各教室の大きさと受講者数を確認し、感染症対策上、安全な対人距離が確保できるよう 2021 年度の基準を継続して対処する予定です。

b. 授業で使用する機器についての指摘・要望

【学生からの指摘・要望】

- ・授業中に必ず電子機器のトラブルが起きた。(共通教育科目)
- ・機械トラブルが多く授業時間が有効に使えていなかった。(専門科目)

【対応】

- ・どちらの授業も、教員から依頼があったためシステム管理課がサポートに入り対処していましたが、一部対応ができていなかった点があったと思われます。引き続きシステム管理課と協議し、授業に支障が出ないように対策します。

【学生からの指摘・要望】

- ・マイクの声がこもって聞きづらい。(共通教育科目)

【対応】

- ・マイクは、ポータブルマイクではなく、アリーナに設置のマイクを使用していたと考えられるため、講師が使用していたフェイスシールドが原因で聞こえにくかったのではとも考えられます。

c. その他

【学生からの指摘・要望】

- ・アルコール消毒を増やしてほしい。(専門科目)

【対応】

- ・学内には十分なアルコール消毒剤が配置されているので、アルコール消毒を増やしてほしいとの指摘は、他機関での実習における指摘と思われます(当該授業は、本学内ではなく学外施設で実施した授業)。

【学生からの指摘・要望】

- ・音声巻き戻しできなかったため、巻き戻しができるように改善していただきたい。(実践的科目)

【対応】

- ・確認したところ当該授業は音声付き PDF を Stream にアップしてオンデマンドで視聴するスタイルの授業で、動画形式にしているものではなかったため巻き戻しはできませんが、前のページに戻れば再度再生できたため、支障はないと思われます。学生に、技術的なサポートについてはシステム管理課に問い合わせることができることの周知を図るよういたします。

【学生からの指摘・要望】

- ・教室の場所が分かりにくい。

【対応】

- ・S502 と別館の地下で、確かに分かりにくいと考えられますので、ND 手帳や学生便覧に構内地図があることの周知を再度図ります。

【学生からの指摘・要望】

- ・電車遅延の場合の授業での扱いを manaba コースニュースや掲示板でアナウンスしてもらえると学生の不安を取り除けると思う。

【対応】

- ・電車遅延時の対処については、今後、UNIPA や manaba 等での周知を検討します。

文責：石川裕之（国際日本文化学科 FD 委員）

3. 2021 年度 学生による授業評価アンケート調査項目・回答形式

(1) 調査項目

【授業の状況】

- (1)授業はシラバス（目標・内容・方法など）に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。
- (2)授業中に使う教材（テキスト・配布資料など）は、わかりやすかった。
- (3)成績評価の仕方が明確に示されていた。
- (4)教員の話し方は、わかりやすかった。
- (5)教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。
- (6)授業は興味関心の持てる内容であった。
- (7)授業の教室の広さや設備などは適切であった。

【学習の状況】

- (8)授業の内容は理解できた。
- (9)やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。
- (10)この科目について授業以外 1 週間あたり、どのくらい学修しましたか。
〔1(4 時間以上)、2(2~4 時間未満)、3(1~2 時間未満)、4(30 分~1 時間未満)、5(30 分未満 6 (0 分))〕

【学習成果】(4 年間で育てたい力 ND6) 本学では卒業時に身につけておくべき 6 つの力「ND6」を定めています。

- (11)この授業で、「自分を育てる力」が向上した。
- (12)この授業で、「知識・理解力」が向上した。
- (13)この授業で、「言語力」が向上した。
- (14)この授業で、「思考・解決力」が向上した。
- (15)この授業で、「共生・協働する力」が向上した。
- (16)この授業で、「創造・発信力」が向上した。

[自由記述]

- ・この科目（授業）について、面白いと感じた点や学びが促進された点、授業を進める中でよかったと感じた点を記入してください（回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「〇〇が〇〇なので〇〇と感じた」など、なるべく具体的に書いてください）。
- ・この科目（授業）について、工夫すべき点、改善してほしい点があれば、具体的に記入してください（回答にあたっては、「よかった」「悪かった」の印象を書くのではなく、「〇〇が〇〇なので〇〇と感じた」など、なるべく具体的に書いてください）。

(2) 回答形式

評価項目(1)～(9)と(11)～(16)については、以下の6件法で回答させた。

- 1：そう思う
- 2：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 4：どちらかと言えばそう思わない
- 5：そう思わない
- 6：該当しない

また、(10)の1週間あたりの学修時間については、以下の6件法で回答させた。

- 1：4時間以上
- 2：2～4時間未満
- 3：1～2時間未満
- 4：30分～1時間未満
- 5：30分未満
- 6：0分

4. 「学生による授業評価アンケート」集計結果表

2020年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 全学部

京都ノートルダム女子大学

| | | | |
|------|------|-------|-----|
| 集計単位 | 全学部 | | |
| 履修者数 | | 全科目数 | |
| 回答者数 | 3890 | 実施科目数 | 527 |
| 対象者数 | 0 | | |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | 合計 | 所属学科別回答率 |
|-------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-------|----------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | 科目等履修生 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 280 22.2% | 202 19.3% | 105 13.9% | 55 18.3% | 642 | 18.9% |
| | 国際日本文化学科 | 395 46.2% | 234 41.5% | 190 33.5% | 52 30.4% | 871 | 40.0% |
| 生活福祉文化学部 | | | | 0 0.0% | 0 | 0.0% | |
| 心理学部 | | | | 3 6.0% | 3 | 6.0% | |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 388 49.0% | 236 42.4% | 106 29.4% | 27 19.7% | 757 | 41.0% |
| | 心理学科 | 498 36.3% | 172 21.4% | 104 18.1% | 37 19.9% | 811 | 27.6% |
| | こども教育学科 | 467 43.8% | 149 23.6% | 164 26.8% | 22 13.9% | 802 | 32.5% |
| 科目等履修生, その他 | | | | 4 14.3% | 4 | 14.3% | |
| 合計 | 2028 | 993 | 669 | 196 | 4 | 3890 | |
| 学年別回答率 | 37.9% | 27.6% | 23.3% | -1.7% | 14.3% | | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない 4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.5 | 2333 | 1188 | 232 | 37 | 40 | 14 | 3844 | 46 | 0.753 |
| | | | 60.0% | 30.5% | 6.0% | 1.0% | 1.0% | 0.4% | 98.8% | 1.2% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.8 | 2013 | 1213 | 329 | 149 | 87 | 63 | 3854 | 36 | 0.792 |
| | | | 51.7% | 31.2% | 8.5% | 3.8% | 2.2% | 1.6% | 99.1% | 0.9% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 2011 | 1180 | 462 | 103 | 61 | 28 | 3845 | 43 | 0.742 |
| | | | 51.7% | 30.3% | 11.9% | 2.6% | 1.6% | 0.7% | 98.8% | 1.1% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.7 | 2029 | 1179 | 383 | 130 | 91 | 35 | 3847 | 43 | 0.792 |
| | | | 52.2% | 30.3% | 9.8% | 3.3% | 2.3% | 0.9% | 98.9% | 1.1% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.8 | 1970 | 1196 | 439 | 116 | 88 | 37 | 3846 | 44 | 0.888 |
| | | | 50.6% | 30.7% | 11.3% | 3.0% | 2.3% | 1.0% | 98.9% | 1.1% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.8 | 1910 | 1285 | 410 | 131 | 94 | 13 | 3843 | 47 | 0.712 |
| | | | 49.1% | 33.0% | 10.5% | 3.4% | 2.4% | 0.3% | 98.8% | 1.2% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.0 | 2091 | 887 | 354 | 120 | 82 | 316 | 3850 | 40 | 0.997 |
| | | | 53.8% | 22.8% | 9.1% | 3.1% | 2.1% | 8.1% | 99.0% | 1.0% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 1746 | 1537 | 372 | 119 | 68 | 8 | 3850 | 40 | 0.881 |
| | | | 44.9% | 39.5% | 9.6% | 3.1% | 1.7% | 0.2% | 99.0% | 1.0% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.4 | 2825 | 622 | 250 | 74 | 41 | 40 | 3852 | 38 | 0.742 |
| | | | 72.6% | 16.0% | 6.4% | 1.9% | 1.1% | 1.0% | 99.0% | 1.0% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.8 | 159 | 482 | 999 | 1008 | 813 | 378 | 3839 | 51 | 1.199 |
| | | | 4.1% | 12.4% | 25.7% | 25.9% | 20.9% | 9.7% | 98.7% | 1.3% | |

【学習成果(4年間で育てたい力 ND6)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 1509 | 1325 | 721 | 97 | 87 | 94 | 3833 | 57 | 0.829 |
| | | | 38.8% | 34.1% | 18.5% | 2.5% | 2.2% | 2.4% | 98.5% | 1.5% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.7 | 1982 | 1376 | 331 | 57 | 66 | 32 | 3844 | 46 | 0.694 |
| | | | 51.0% | 35.4% | 8.5% | 1.5% | 1.7% | 0.8% | 98.8% | 1.2% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.4 | 1209 | 1125 | 846 | 201 | 150 | 304 | 3835 | 55 | 1.544 |
| | | | 31.1% | 28.9% | 21.7% | 5.2% | 3.9% | 7.8% | 98.6% | 1.4% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.0 | 1454 | 1413 | 650 | 129 | 94 | 92 | 3832 | 58 | 1.018 |
| | | | 37.4% | 36.3% | 16.7% | 3.3% | 2.4% | 2.4% | 98.5% | 1.5% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.5 | 1159 | 1070 | 971 | 199 | 168 | 260 | 3827 | 63 | 1.086 |
| | | | 29.8% | 27.5% | 25.0% | 5.1% | 4.3% | 6.7% | 98.4% | 1.6% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.3 | 1220 | 1258 | 905 | 148 | 127 | 176 | 3834 | 56 | 0.921 |
| | | | 31.4% | 32.3% | 23.3% | 3.8% | 3.3% | 4.5% | 98.6% | 1.4% | |

2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | |
|------|--------|
| 集計単位 | 共通教育科目 |
|------|--------|

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 3831 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 1216 | 実施科目数 | 93 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 合計 |
|-------------|---------------------|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 77 22.3% | 46 22.8% | 16 10.6% | 15 23.1% | 154 20.0% |
| | 国際日本文化学科 | 242 45.0% | 36 34.6% | 29 31.9% | 8 30.8% | 315 41.1% |
| 生活福祉文化学部 | | | | 0 | 0 | 0 |
| 心理学部 | | | | 0 0.0% | 0 0.0% | 0 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 200 40.9% | 26 32.5% | 5 18.5% | 1 7.1% | 232 38.0% |
| | 心理学科 | 262 36.9% | 24 18.2% | 11 16.4% | 9 36.0% | 306 32.8% |
| | こども教育学科 | 179 38.5% | 14 13.7% | 14 10.3% | 0 0.0% | 207 28.6% |
| 科目等履修生, その他 | | | | 2 | 2 | 2 |
| 合計 | 960 | 146 | 75 | 33 | 100.0% | 1216 |
| 学年別回答率 | 37.7% | 23.5% | 15.9% | 17.4% | 100.0% | 31.7% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

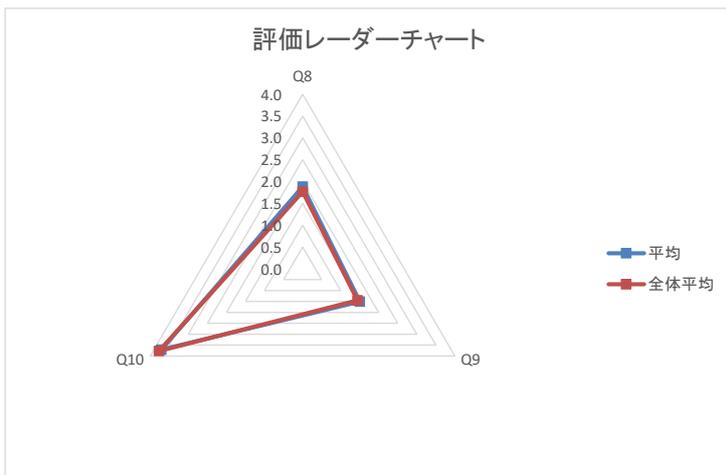
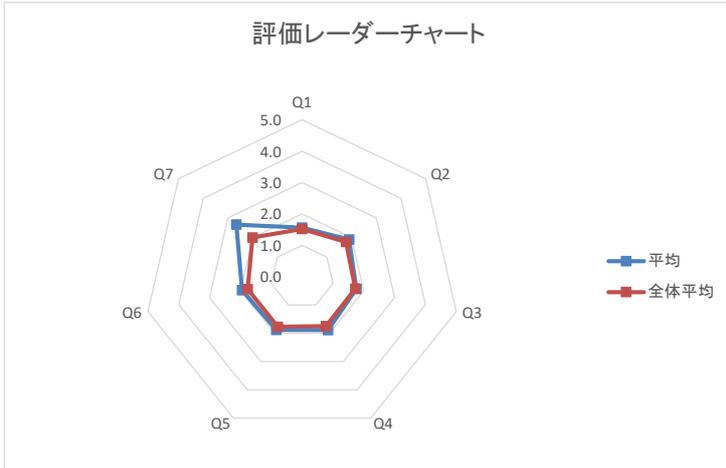
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|--------------|--------------|------------|------------|--------------|------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・機会・適切な手段が用いられている。 | 1.6 | 693 57.0% | 394 32.4% | 84 6.9% | 9 0.7% | 16 1.3% | 16 0.3% | 1200 | 16 | 0.692 |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.9 | 587 48.3% | 384 31.6% | 109 9.0% | 61 5.0% | 32 2.6% | 34 2.8% | 1207 | 9 | 0.855 |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.8 | 615 50.6% | 362 29.8% | 165 13.6% | 34 2.8% | 25 2.1% | 4 0.3% | 1205 | 11 | 0.478 |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.9 | 563 46.3% | 387 31.8% | 157 12.9% | 46 3.8% | 31 2.5% | 21 1.7% | 1205 | 11 | 1.026 |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.9 | 545 44.8% | 406 33.4% | 170 14.0% | 33 2.7% | 33 2.7% | 17 1.4% | 1204 | 12 | 0.933 |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.9 | 492 40.5% | 435 35.8% | 172 14.1% | 59 4.9% | 40 3.3% | 4 0.3% | 1202 | 14 | 1.316 |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.7 | 520 42.8% | 245 20.1% | 118 9.7% | 32 2.6% | 32 2.6% | 259 21.3% | 1206 | 10 | 0.692 |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.9 | 479 39.4% | 508 41.8% | 138 11.3% | 47 3.9% | 32 2.6% | 2 0.2% | 1206 | 10 | 0.918 |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.5 | 854 70.2% | 205 16.9% | 82 6.7% | 37 3.0% | 17 1.4% | 12 1.0% | 1207 | 9 | 0.976 |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.7 | 33 2.7% | 163 13.4% | 354 29.1% | 337 27.7% | 200 16.4% | 115 9.5% | 1202 | 14 | 1.212 |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|------------|------------|------------|------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 3.1 | 415 34.1% | 414 34.0% | 277 22.8% | 37 3.0% | 35 2.9% | 20 1.6% | 1198 | 18 | 1.202 |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.8 | 545 44.8% | 495 40.7% | 112 9.2% | 20 1.6% | 24 2.0% | 7 0.6% | 1203 | 13 | 0.895 |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.5 | 379 31.2% | 348 28.6% | 254 20.9% | 62 5.1% | 67 5.5% | 87 7.2% | 1197 | 19 | 1.214 |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.1 | 404 33.2% | 441 36.3% | 241 19.8% | 47 3.9% | 40 3.3% | 26 2.1% | 1199 | 17 | 1.134 |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.6 | 329 27.1% | 299 24.6% | 346 28.5% | 61 5.0% | 76 6.3% | 85 7.0% | 1196 | 20 | 1.247 |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.4 | 327 26.9% | 383 31.5% | 323 26.6% | 57 4.7% | 58 4.8% | 52 4.3% | 1200 | 16 | 1.134 |



2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 英語英文学科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|-----|
| 履修者数 | 2452 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 437 | 実施科目数 | 109 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|---------------------|--------------|--------------|-------------|-------------|----------|--------------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 199 22.2% | 134 16.9% | 68 13.2% | 30 14.3% | | 431 17.7% |
| | 国際日本文化学科 | 1 100.0% | 4 66.7% | | 0 | | 6 54.5% |
| 生活福祉文化学部 | | | | 0 | | 0 | 0 |
| 心理学部 | | | | 0 | | 0 | 0 |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| | 心理学科 | 0 | 0 | 0.0% | 0 | | 0.0% |
| | こども教育学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 0 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 200 | 138 | 69 | 30 | 0 | 437 | |
| 学年別回答率 | 22.3% | 17.3% | 13.2% | 12.8% | 0.0% | | 17.8% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

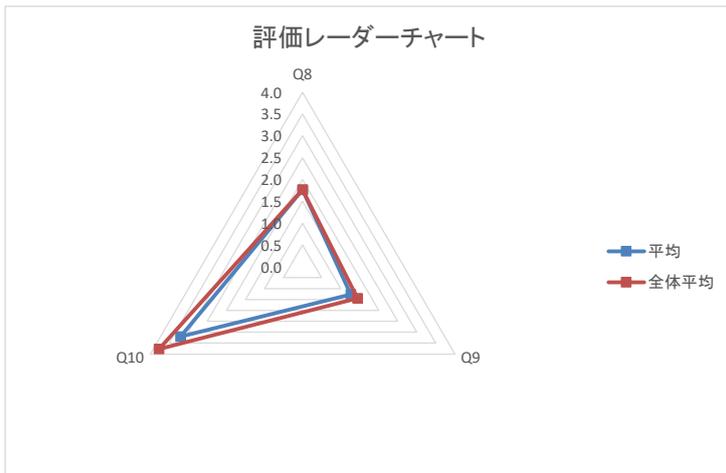
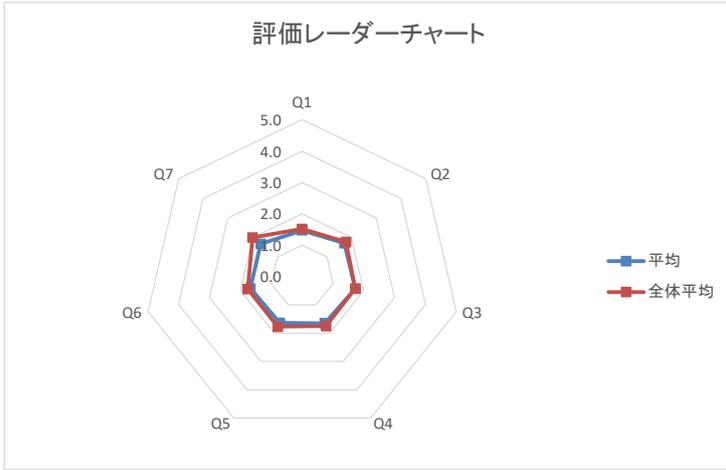
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|--------------|------------|------------|------------|------------|--------------|------------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・参考資料を適切に活用している。 | 1.5 | 278 63.6% | 105 24.0% | 16 3.7% | 8 1.8% | 8 1.8% | 8 0.2% | 416 95.2% | 21 4.8% | 0.488 |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 244 55.8% | 118 27.0% | 21 4.8% | 17 3.9% | 17 3.9% | 4 0.9% | 421 96.3% | 16 3.7% | 0.507 |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 236 54.0% | 115 26.3% | 35 8.0% | 14 3.2% | 15 3.4% | 3 0.7% | 418 95.7% | 19 4.3% | 0.640 |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.6 | 250 57.2% | 112 25.6% | 32 7.3% | 15 3.4% | 13 3.0% | 0 0.0% | 422 96.6% | 15 3.4% | 0.632 |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.6 | 257 58.8% | 108 24.7% | 21 4.8% | 15 3.4% | 17 3.9% | 0 0.0% | 418 95.7% | 19 4.3% | 0.737 |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 231 52.9% | 126 28.8% | 34 7.8% | 14 3.2% | 12 2.7% | 0 0.0% | 417 95.4% | 20 4.6% | 0.704 |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.7 | 273 62.5% | 84 19.2% | 25 5.7% | 12 2.7% | 12 2.7% | 13 3.0% | 419 95.9% | 18 4.1% | 0.640 |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|--------------|-------------|-----------|--------------|------------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 209 47.8% | 145 33.2% | 36 8.2% | 20 4.6% | 11 2.5% | 0 0.0% | 421 96.3% | 16 3.7% | 0.632 |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.3 | 343 78.5% | 57 13.0% | 17 3.9% | 1 0.2% | 2 0.5% | 2 0.5% | 422 96.6% | 15 3.4% | 0.617 |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。 | 3.2 | 27 6.2% | 80 18.3% | 154 35.2% | 106 24.3% | 45 10.3% | 8 1.8% | 420 96.1% | 17 3.9% | 0.900 |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|--------------|-------------|------------|------------|------------|--------------|------------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 184 42.1% | 144 33.0% | 57 13.0% | 8 1.8% | 16 3.7% | 7 1.6% | 416 95.2% | 21 4.8% | 0.845 |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.6 | 239 54.7% | 129 29.5% | 30 6.9% | 6 1.4% | 15 3.4% | 0 0.0% | 419 95.9% | 18 4.1% | 0.640 |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 1.9 | 195 44.6% | 121 27.7% | 69 15.8% | 9 2.1% | 11 2.5% | 12 2.7% | 417 95.4% | 20 4.6% | 1.383 |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.9 | 177 40.5% | 144 33.0% | 64 14.6% | 8 1.8% | 18 4.1% | 4 0.9% | 415 95.0% | 22 5.0% | 0.724 |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.5 | 132 30.2% | 114 26.1% | 91 20.8% | 20 4.6% | 23 5.3% | 31 7.1% | 411 94.1% | 26 5.9% | 0.632 |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.2 | 150 34.3% | 143 32.7% | 70 16.0% | 18 4.1% | 16 3.7% | 15 3.4% | 412 94.3% | 25 5.7% | 0.915 |



2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 国際日本文化科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1255 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 469 | 実施科目数 | 64 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 合計 | 所属学科別回答率 |
|-------------|---------------------|-------|-------|-------|--------|-----|----------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 4 | 8 | 3 | 15 | 15 |
| | 国際日本文化学科 | 120 | 157 | 124 | 41 | 442 | 20.8% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | 0 | 0 |
| 心理学部 | | | | | 1 | 1 | 33.3% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 1 | 3 | 0 | 1 | 5 | 26.3% |
| | 心理学科 | 1 | 2 | 2 | 0 | 5 | 23.8% |
| | こども教育学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.0% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 1 | 1 | 7.7% |
| 合計 | 122 | 166 | 134 | 46 | 1 | 469 | 37.4% |
| 学年別回答率 | 47.3% | 41.2% | 32.1% | 27.4% | 7.7% | | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

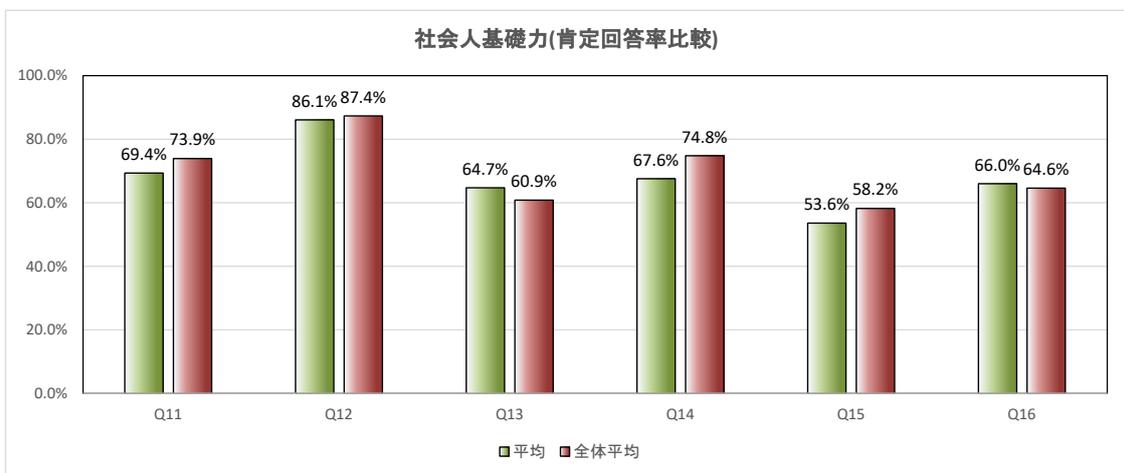
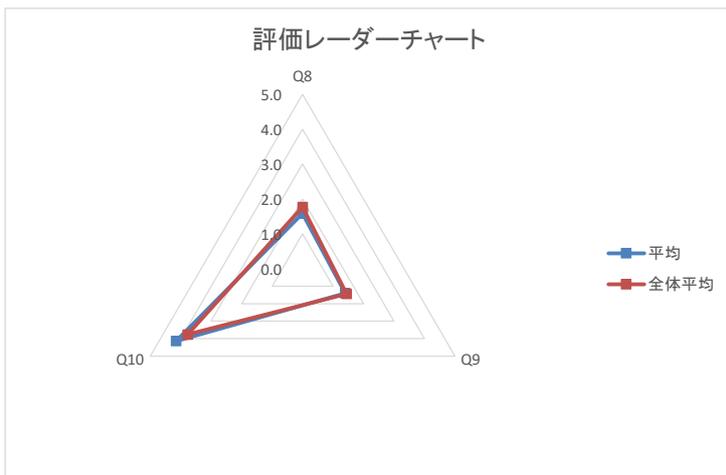
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・機会・適切な言語が活用されている。 | 1.4 | 318 | 115 | 22 | 5 | 5 | 2 | 467 | 2 | 0.728 |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 273 | 133 | 37 | 10 | 7 | 8 | 468 | 1 | 1.338 |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 268 | 131 | 48 | 11 | 4 | 6 | 468 | 1 | 0.814 |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.5 | 287 | 130 | 36 | 10 | 5 | 1 | 469 | 0 | 0.632 |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.6 | 277 | 123 | 53 | 11 | 3 | 2 | 469 | 0 | 0.780 |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.6 | 270 | 142 | 36 | 13 | 4 | 3 | 468 | 1 | 0.501 |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.5 | 319 | 99 | 32 | 12 | 3 | 3 | 468 | 1 | 0.686 |
| | | | 68.0% | 21.1% | 6.8% | 2.6% | 0.6% | 0.6% | 99.8% | 0.2% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|------|-------|-------|-------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.6 | 261 | 157 | 41 | 6 | 4 | 0 | 469 | 0 | 0.634 |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.4 | 344 | 83 | 25 | 11 | 4 | 1 | 468 | 1 | 0.435 |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 4.1 | 12 | 42 | 89 | 122 | 129 | 75 | 469 | 0 | 1.398 |
| | | | 2.6% | 9.0% | 19.0% | 26.0% | 27.5% | 16.0% | 100.0% | 0.0% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.4 | 185 | 139 | 86 | 11 | 17 | 29 | 467 | 2 | 1.327 |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.7 | 261 | 142 | 44 | 5 | 7 | 9 | 468 | 1 | 0.915 |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.4 | 162 | 141 | 87 | 24 | 8 | 46 | 468 | 1 | 1.379 |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.2 | 174 | 143 | 90 | 24 | 9 | 29 | 469 | 0 | 1.017 |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.6 | 139 | 112 | 123 | 29 | 23 | 42 | 468 | 1 | 1.240 |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.3 | 168 | 141 | 91 | 23 | 16 | 29 | 468 | 1 | 0.939 |
| | | | 35.8% | 30.1% | 19.4% | 4.9% | 3.4% | 6.2% | 99.8% | 0.2% | |



2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 現代人間学部共通科目

| | | | |
|------|----|-------|---|
| 履修者数 | 64 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 11 | 実施科目数 | 2 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 合計 | 所属学科別回答率 |
|-------------|---------------------|------|-------|-------|--------|----|----------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 25.0% |
| | 国際日本文化学科 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 25.0% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | 0 | |
| 心理学部 | | | | | 0 | 0 | 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 100.0% |
| | 心理学科 | 2 | 0 | 2 | 2 | 6 | 17.1% |
| | こども教育学科 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 10.5% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 0 | 0 | |
| 合計 | 3 | 0 | 5 | 3 | 0 | 11 | 17.2% |
| 学年別回答率 | 8.8% | 0.0% | 25.0% | 33.3% | | | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

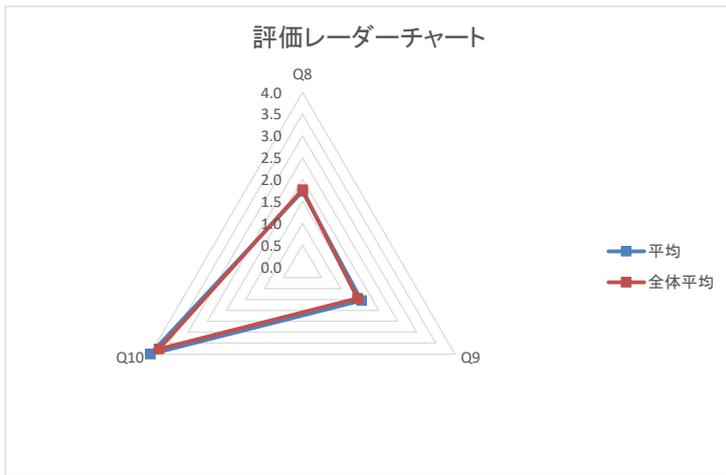
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・参考書・資料等に | 1.4 | 7 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0.518 |
| | | | 63.6% | 36.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやす | 2.1 | 5 | 4 | 0 | 1 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1.768 |
| | | | 45.5% | 36.4% | 0.0% | 9.1% | 0.0% | 9.1% | 100.0% | 0.0% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示 | 1.7 | 6 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 11 | 0 | 1.126 |
| | | | 54.5% | 27.3% | 9.1% | 9.1% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わ | 1.7 | 5 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0.707 |
| | | | 45.5% | 36.4% | 18.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に | 1.9 | 5 | 3 | 2 | 1 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0.835 |
| | | | 45.5% | 27.3% | 18.2% | 9.1% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる | 1.6 | 7 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 11 | 0 | 1.165 |
| | | | 63.6% | 18.2% | 9.1% | 9.1% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備な | 3.3 | 4 | 1 | 2 | 0 | 0 | 4 | 11 | 0 | 2.357 |
| | | | 36.4% | 9.1% | 18.2% | 0.0% | 0.0% | 36.4% | 100.0% | 0.0% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.7 | 4 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 0.641 |
| | | | 36.4% | 54.5% | 9.1% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅 | 1.5 | 8 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 11 | 0 | 1.389 |
| | | | 72.7% | 18.2% | 0.0% | 0.0% | 9.1% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外 | 4.0 | 0 | 0 | 5 | 2 | 3 | 1 | 11 | 0 | 1.126 |
| | | | 0.0% | 0.0% | 45.5% | 18.2% | 27.3% | 9.1% | 100.0% | 0.0% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育て | 2.1 | 5 | 3 | 2 | 0 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1.604 |
| | | | 45.5% | 27.3% | 18.2% | 0.0% | 0.0% | 9.1% | 100.0% | 0.0% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解 | 1.8 | 5 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 11 | 0 | 1.309 |
| | | | 45.5% | 45.5% | 0.0% | 0.0% | 9.1% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が | 3.8 | 2 | 1 | 3 | 0 | 1 | 4 | 11 | 0 | 2.252 |
| | | | 18.2% | 9.1% | 27.3% | 0.0% | 9.1% | 36.4% | 100.0% | 0.0% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決 | 2.5 | 0 | 8 | 2 | 0 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1.389 |
| | | | 0.0% | 72.7% | 18.2% | 0.0% | 0.0% | 9.1% | 100.0% | 0.0% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働 | 3.3 | 1 | 4 | 3 | 0 | 0 | 3 | 11 | 0 | 1.808 |
| | | | 9.1% | 36.4% | 27.3% | 0.0% | 0.0% | 27.3% | 100.0% | 0.0% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信 | 2.8 | 2 | 2 | 5 | 1 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1.389 |
| | | | 18.2% | 18.2% | 45.5% | 9.1% | 0.0% | 9.1% | 100.0% | 0.0% | |



2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 福祉生活デザイン学科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1468 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 572 | 実施科目数 | 92 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|---------------------|--------|--------|-------|--------|----------|-------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 2 | 1 | 0 | | 3 |
| | | | 100.0% | 50.0% | 0.0% | | 37.5% |
| 国際日本文化学科 | | 1 | 1 | 0 | 0 | | 2 |
| | | 100.0% | 12.5% | 0.0% | 0.0% | | 11.8% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 176 | 206 | 100 | 22 | | 504 |
| | | 62.4% | 44.4% | 31.3% | 20.6% | | 43.0% |
| | 心理学科 | 20 | 30 | 8 | 5 | | 63 |
| | | 62.5% | 24.2% | 11.3% | 13.9% | | 24.0% |
| こども教育学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 0 | | 0 |
| 合計 | 197 | 239 | 109 | 27 | 0 | | 572 |
| 学年別回答率 | 62.5% | 39.8% | 27.5% | 17.1% | 0.0% | | 39.0% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

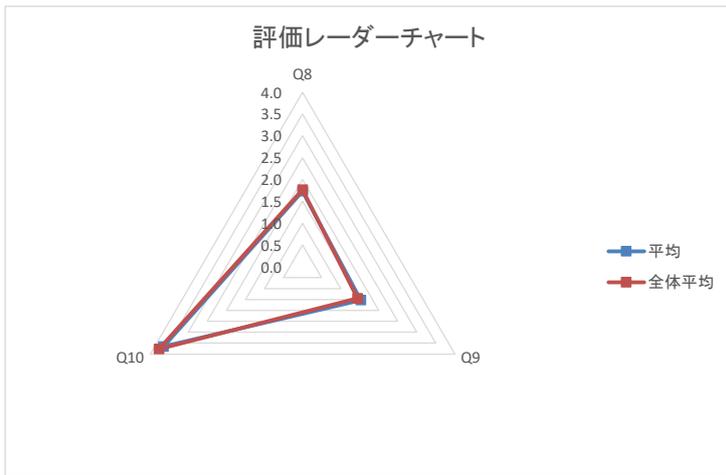
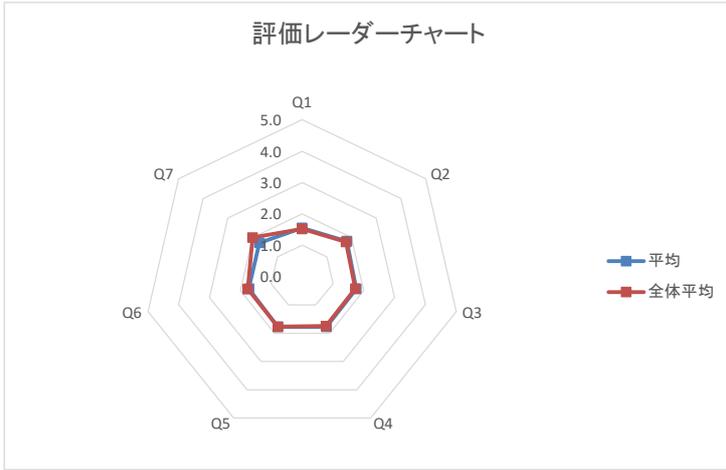
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適量かつ合理的に選択された。 | 1.6 | 331 | 189 | 39 | 5 | 5 | 3 | 572 | 0 | 0.753 |
| | | | 57.9% | 33.0% | 6.8% | 0.9% | 0.9% | 0.5% | 100.0% | 0.0% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.8 | 290 | 171 | 61 | 29 | 11 | 8 | 570 | 2 | 0.792 |
| | | | 50.7% | 29.9% | 10.7% | 5.1% | 1.9% | 1.4% | 99.7% | 0.3% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.8 | 287 | 188 | 69 | 10 | 7 | 9 | 570 | 2 | 0.742 |
| | | | 50.2% | 32.9% | 12.1% | 1.7% | 1.2% | 1.6% | 99.7% | 0.3% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.8 | 307 | 163 | 57 | 17 | 14 | 11 | 569 | 3 | 0.792 |
| | | | 53.7% | 28.5% | 10.0% | 3.0% | 2.4% | 1.9% | 99.5% | 0.5% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.8 | 308 | 160 | 61 | 20 | 10 | 12 | 571 | 1 | 0.888 |
| | | | 53.8% | 28.0% | 10.7% | 3.5% | 1.7% | 2.1% | 99.8% | 0.2% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 300 | 180 | 59 | 12 | 15 | 4 | 570 | 2 | 0.712 |
| | | | 52.4% | 31.5% | 10.3% | 2.1% | 2.6% | 0.7% | 99.7% | 0.3% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.7 | 346 | 127 | 55 | 12 | 11 | 20 | 571 | 1 | 0.997 |
| | | | 60.5% | 22.2% | 9.6% | 2.1% | 1.9% | 3.5% | 99.8% | 0.2% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.7 | 259 | 230 | 60 | 13 | 4 | 2 | 568 | 4 | 0.881 |
| | | | 45.3% | 40.2% | 10.5% | 2.3% | 0.7% | 0.3% | 99.3% | 0.7% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.5 | 387 | 106 | 55 | 10 | 5 | 7 | 570 | 2 | 0.742 |
| | | | 67.7% | 18.5% | 9.6% | 1.7% | 0.9% | 1.2% | 99.7% | 0.3% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.7 | 38 | 84 | 127 | 138 | 147 | 33 | 567 | 5 | 1.199 |
| | | | 6.6% | 14.7% | 22.2% | 24.1% | 25.7% | 5.8% | 99.1% | 0.9% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.1 | 253 | 196 | 89 | 12 | 7 | 13 | 570 | 2 | 0.829 |
| | | | 44.2% | 34.3% | 15.6% | 2.1% | 1.2% | 2.3% | 99.7% | 0.3% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.6 | 317 | 184 | 46 | 11 | 5 | 8 | 571 | 1 | 0.694 |
| | | | 55.4% | 32.2% | 8.0% | 1.9% | 0.9% | 1.4% | 99.8% | 0.2% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.6 | 178 | 145 | 131 | 33 | 23 | 59 | 569 | 3 | 1.544 |
| | | | 31.1% | 25.3% | 22.9% | 5.8% | 4.0% | 10.3% | 99.5% | 0.5% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.0 | 234 | 198 | 93 | 16 | 15 | 13 | 569 | 3 | 1.018 |
| | | | 40.9% | 34.6% | 16.3% | 2.8% | 2.6% | 2.3% | 99.5% | 0.5% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.2 | 218 | 154 | 116 | 32 | 15 | 33 | 568 | 4 | 1.086 |
| | | | 38.1% | 26.9% | 20.3% | 5.6% | 2.6% | 5.8% | 99.3% | 0.7% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.1 | 214 | 180 | 126 | 12 | 11 | 26 | 569 | 3 | 0.921 |
| | | | 37.4% | 31.5% | 22.0% | 2.1% | 1.9% | 4.5% | 99.5% | 0.5% | |



2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 心理学科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1664 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 416 | 実施科目数 | 50 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 合計 |
|-------------|---------------------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 国際日本文化学科 | 0 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| | | 0.0% | 100.0% | 50.0% | 0.0% | 40.0% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 | 0 |
| | | | | | 0.0% | 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 心理学科 | 202 | 109 | 80 | 20 | 411 |
| | こども教育学科 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 |
| | | 34.3% | 21.2% | 19.2% | 18.3% | 25.2% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 0 | 0 |
| | | | | | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | | 202 | 110 | 82 | 21 | 415 |
| 学年別回答率 | | 34.1% | 21.2% | 19.3% | 16.2% | 24.9% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

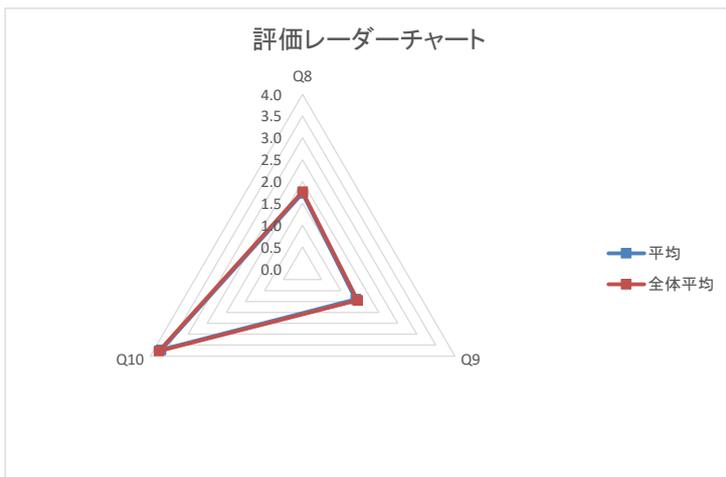
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|--------|-------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・参考資料を適切に活用している。 | 1.4 | 274 | 130 | 9 | 2 | 0 | 1 | 416 | -1 | 0.505 |
| | | | 65.9% | 31.3% | 2.2% | 0.5% | 0.0% | 0.2% | 100.2% | -0.2% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.6 | 220 | 155 | 28 | 5 | 3 | 4 | 415 | 0 | 1.446 |
| | | | 52.9% | 37.3% | 6.7% | 1.2% | 0.7% | 1.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 206 | 152 | 42 | 11 | 2 | 2 | 415 | 0 | 1.502 |
| | | | 49.5% | 36.5% | 10.1% | 2.6% | 0.5% | 0.5% | 100.0% | 0.0% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.6 | 223 | 147 | 31 | 8 | 4 | 1 | 414 | 1 | 0.674 |
| | | | 53.6% | 35.3% | 7.5% | 1.9% | 1.0% | 0.2% | 99.8% | 0.2% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.6 | 214 | 164 | 29 | 6 | 2 | 0 | 415 | 0 | 0.688 |
| | | | 51.4% | 39.4% | 7.0% | 1.4% | 0.5% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.6 | 227 | 152 | 24 | 8 | 4 | 1 | 416 | -1 | 0.505 |
| | | | 54.6% | 36.5% | 5.8% | 1.9% | 1.0% | 0.2% | 100.2% | -0.2% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.8 | 218 | 120 | 39 | 20 | 6 | 13 | 416 | -1 | 0.674 |
| | | | 52.4% | 28.8% | 9.4% | 4.8% | 1.4% | 3.1% | 100.2% | -0.2% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.7 | 173 | 205 | 25 | 8 | 2 | 3 | 416 | -1 | 1.414 |
| | | | 41.6% | 49.3% | 6.0% | 1.9% | 0.5% | 0.7% | 100.2% | -0.2% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.4 | 327 | 51 | 21 | 5 | 3 | 9 | 416 | -1 | 0.302 |
| | | | 78.6% | 12.3% | 5.0% | 1.2% | 0.7% | 2.2% | 100.2% | -0.2% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。 | 3.7 | 16 | 51 | 115 | 122 | 77 | 35 | 416 | -1 | 1.183 |
| | | | 3.8% | 12.3% | 27.6% | 29.3% | 18.5% | 8.4% | 100.2% | -0.2% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|--------|-------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 171 | 154 | 71 | 10 | 2 | 7 | 415 | 0 | 0.647 |
| | | | 41.1% | 37.0% | 17.1% | 2.4% | 0.5% | 1.7% | 100.0% | 0.0% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.5 | 232 | 158 | 21 | 1 | 2 | 0 | 414 | 1 | 0.505 |
| | | | 55.8% | 38.0% | 5.0% | 0.2% | 0.5% | 0.0% | 99.8% | 0.2% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.6 | 91 | 145 | 94 | 39 | 17 | 30 | 416 | -1 | 1.700 |
| | | | 21.9% | 34.9% | 22.6% | 9.4% | 4.1% | 7.2% | 100.2% | -0.2% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.8 | 177 | 181 | 43 | 5 | 2 | 6 | 414 | 1 | 1.537 |
| | | | 42.5% | 43.5% | 10.3% | 1.2% | 0.5% | 1.4% | 99.8% | 0.2% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.5 | 108 | 123 | 117 | 25 | 14 | 28 | 415 | 0 | 1.578 |
| | | | 26.0% | 29.6% | 28.1% | 6.0% | 3.4% | 6.7% | 100.0% | 0.0% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.4 | 113 | 129 | 122 | 14 | 11 | 27 | 416 | -1 | 1.673 |
| | | | 27.2% | 31.0% | 29.3% | 3.4% | 2.6% | 6.5% | 100.2% | -0.2% | |



2020年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 小児教育学科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1697 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 588 | 実施科目数 | 77 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 合計 |
|-------------|---------------------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 国際日本文化学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | 0 |
| 心理学部 | | | | | 2 | 2 |
| | | | | | 66.7% | 66.7% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 心理学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 小児教育学科 | 286 | 133 | 146 | 21 | 586 |
| | | | | | 49.0% | 25.4% |
| | | | | | 31.6% | 16.8% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 0 | 0 |
| | | | | | 0.0% | 0.0% |
| 合計 | | 286 | 133 | 146 | 23 | 588 |
| 学年別回答率 | | 49.0% | 25.4% | 31.6% | 17.8% | 34.6% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

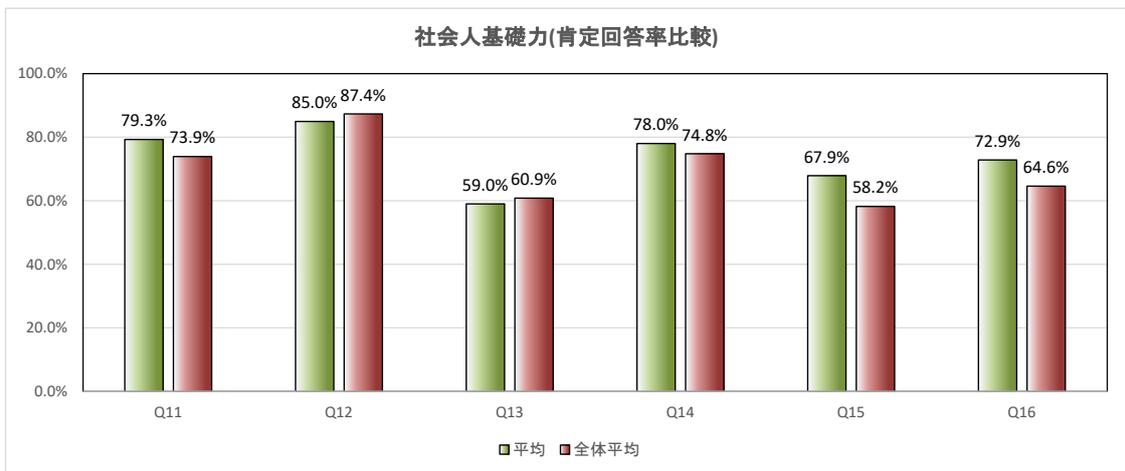
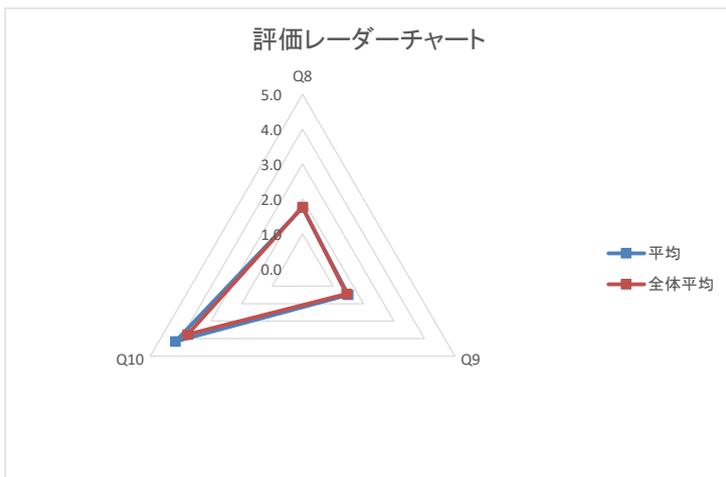
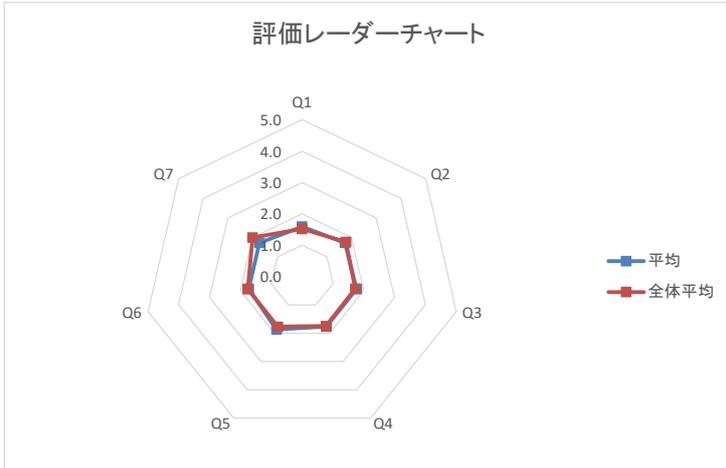
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・資料を適切に活用している。 | 1.6 | 316 | 211 | 47 | 7 | 5 | 1 | 587 | 1 | 1.025 |
| | | | 53.7% | 35.9% | 8.0% | 1.2% | 0.9% | 0.2% | 99.8% | 0.2% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 297 | 202 | 57 | 16 | 11 | 4 | 587 | 1 | 1.702 |
| | | | 50.5% | 34.4% | 9.7% | 2.7% | 1.9% | 0.7% | 99.8% | 0.2% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.8 | 286 | 190 | 82 | 16 | 7 | 4 | 585 | 3 | 1.047 |
| | | | 48.6% | 32.3% | 13.9% | 2.7% | 1.2% | 0.7% | 99.5% | 0.5% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.8 | 300 | 188 | 47 | 25 | 21 | 1 | 582 | 6 | 1.335 |
| | | | 51.0% | 32.0% | 8.0% | 4.3% | 3.6% | 0.2% | 99.0% | 1.0% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.9 | 268 | 196 | 78 | 19 | 19 | 4 | 584 | 4 | 1.113 |
| | | | 45.6% | 33.3% | 13.3% | 3.2% | 3.2% | 0.7% | 99.3% | 0.7% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 294 | 206 | 53 | 18 | 14 | 1 | 586 | 2 | 0.632 |
| | | | 50.0% | 35.0% | 9.0% | 3.1% | 2.4% | 0.2% | 99.7% | 0.3% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.7 | 308 | 178 | 64 | 20 | 15 | 0 | 585 | 3 | 0.834 |
| | | | 52.4% | 30.3% | 10.9% | 3.4% | 2.6% | 0.0% | 99.5% | 0.5% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.7 | 278 | 220 | 55 | 18 | 12 | 1 | 584 | 4 | 0.704 |
| | | | 47.3% | 37.4% | 9.4% | 3.1% | 2.0% | 0.2% | 99.3% | 0.7% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.5 | 416 | 97 | 45 | 10 | 8 | 8 | 584 | 4 | 0.258 |
| | | | 70.7% | 16.5% | 7.7% | 1.7% | 1.4% | 1.4% | 99.3% | 0.7% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。 | 4.2 | 26 | 40 | 103 | 145 | 172 | 95 | 581 | 7 | 1.408 |
| | | | 4.4% | 6.8% | 17.5% | 24.7% | 29.3% | 16.2% | 98.8% | 1.2% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.1 | 238 | 226 | 90 | 13 | 8 | 10 | 585 | 3 | 1.063 |
| | | | 40.5% | 38.4% | 15.3% | 2.2% | 1.4% | 1.7% | 99.5% | 0.5% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.8 | 286 | 212 | 60 | 10 | 12 | 6 | 586 | 2 | 1.436 |
| | | | 48.6% | 36.1% | 10.2% | 1.7% | 2.0% | 1.0% | 99.7% | 0.3% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.5 | 161 | 185 | 152 | 19 | 18 | 51 | 586 | 2 | 1.844 |
| | | | 27.4% | 31.5% | 25.9% | 3.2% | 3.1% | 8.7% | 99.7% | 0.3% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.0 | 219 | 236 | 88 | 24 | 7 | 9 | 583 | 5 | 1.455 |
| | | | 37.2% | 40.1% | 15.0% | 4.1% | 1.2% | 1.5% | 99.1% | 0.9% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.2 | 181 | 217 | 131 | 17 | 13 | 27 | 586 | 2 | 1.366 |
| | | | 30.8% | 36.9% | 22.3% | 2.9% | 2.2% | 4.6% | 99.7% | 0.3% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.1 | 196 | 231 | 117 | 11 | 13 | 18 | 586 | 2 | 0.966 |
| | | | 33.3% | 39.3% | 19.9% | 1.9% | 2.2% | 3.1% | 99.7% | 0.3% | |



2020 年度後期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | |
|------|-------|
| 集計単位 | 資格科目等 |
|------|-------|

| | | | |
|------|-----|-------|----|
| 履修者数 | 454 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 181 | 実施科目数 | 22 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|------------|----------|--------------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 4 22.2% | 16 50.0% | 11 28.2% | 7 77.8% | | 38 38.8% |
| | 国際日本文化学科 | 31 53.4% | 35 44.9% | 34 33.7% | 3 30.0% | | 103 41.4% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 11 55.0% | 1 33.3% | 1 12.5% | 2 22.2% | | 15 37.5% |
| | 心理学科 | 11 47.8% | 7 31.8% | 1 33.3% | 1 16.7% | | 20 37.0% |
| | こども教育学科 | 1 100.0% | 2 66.7% | 2 33.3% | 0 0.0% | | 5 38.5% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | | 0 | 0 |
| 合計 | | 58 | 61 | 49 | 13 | 0 | 181 |
| 学年別回答率 | | 48.3% | 44.2% | 31.2% | 32.5% | | 39.9% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2~4時間未満 3：1~2時間未満 4：30分~1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

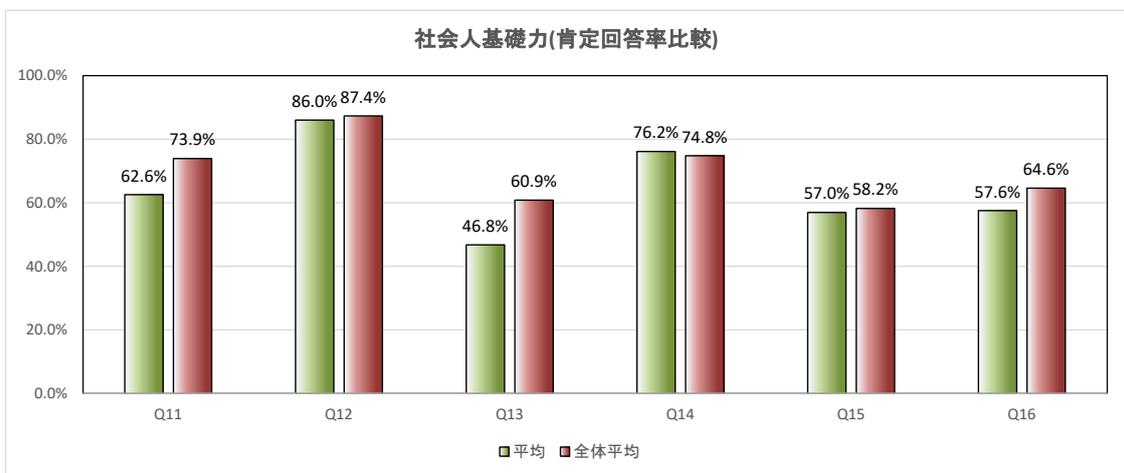
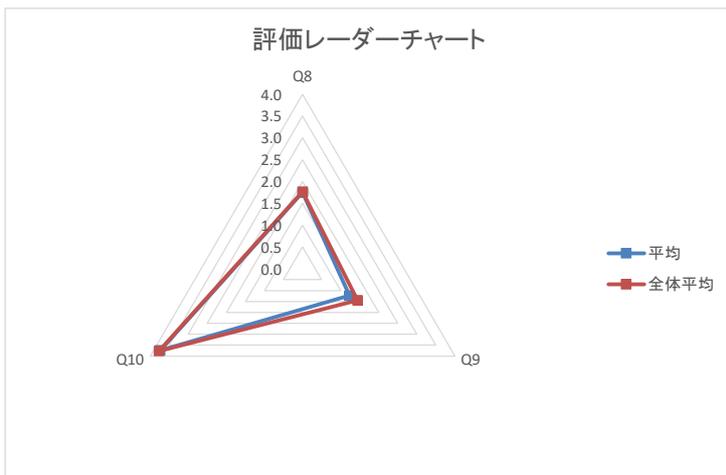
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|------|---------------------|-------------|-------------|------------|-----------|-----------|--------------|-----------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、適宜教材・参考資料を適切に活用している。 | 1.5 | 116 64.1% | 40 22.1% | 15 8.3% | 1 0.6% | 1 0.6% | 2 1.1% | 175 96.7% | 6 3.3% | 0.697 |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.8 | 97 53.6% | 46 25.4% | 16 8.8% | 10 5.5% | 6 3.3% | 0 0.0% | 175 96.7% | 6 3.3% | 0.940 |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.6 | 107 59.1% | 39 21.5% | 20 11.0% | 6 3.3% | 1 0.6% | 0 0.0% | 173 95.6% | 8 4.4% | 0.772 |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.7 | 94 51.9% | 48 26.5% | 21 11.6% | 9 5.0% | 3 1.7% | 0 0.0% | 175 96.7% | 6 3.3% | 0.826 |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.8 | 96 53.0% | 36 19.9% | 25 13.8% | 11 6.1% | 4 2.2% | 2 1.1% | 174 96.1% | 7 3.9% | 0.639 |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.8 | 89 49.2% | 42 23.2% | 31 17.1% | 6 3.3% | 5 2.8% | 0 0.0% | 173 95.6% | 8 4.4% | 0.955 |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.8 | 103 56.9% | 33 18.2% | 19 10.5% | 12 6.6% | 3 1.7% | 4 2.2% | 174 96.1% | 7 3.9% | 0.681 |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|--------------|-----------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.7 | 83 45.9% | 66 36.5% | 16 8.8% | 7 3.9% | 3 1.7% | 0 0.0% | 175 96.7% | 6 3.3% | 0.754 |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.2 | 146 80.7% | 21 11.6% | 5 2.8% | 0 0.0% | 1 0.6% | 1 0.6% | 174 96.1% | 7 3.9% | 0.224 |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.7 | 7 3.9% | 22 12.2% | 52 28.7% | 36 19.9% | 40 22.1% | 16 8.8% | 173 95.6% | 8 4.4% | 1.268 |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------------|-------------|------------|-----------|------------|--------------|------------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.3 | 58 32.0% | 49 27.1% | 49 27.1% | 6 3.3% | 2 1.1% | 7 3.9% | 171 94.5% | 10 5.5% | 0.911 |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.6 | 97 53.6% | 51 28.2% | 18 9.9% | 4 2.2% | 0 0.0% | 2 1.1% | 172 95.0% | 9 5.0% | 0.686 |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.7 | 41 22.7% | 39 21.5% | 56 30.9% | 15 8.3% | 5 2.8% | 15 8.3% | 171 94.5% | 10 5.5% | 1.429 |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.0 | 69 38.1% | 62 34.3% | 29 16.0% | 5 2.8% | 3 1.7% | 4 2.2% | 172 95.0% | 9 5.0% | 1.049 |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.5 | 51 28.2% | 47 26.0% | 44 24.3% | 15 8.3% | 4 2.2% | 11 6.1% | 172 95.0% | 9 5.0% | 1.264 |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.4 | 50 27.6% | 49 27.1% | 51 28.2% | 12 6.6% | 2 1.1% | 8 4.4% | 172 95.0% | 9 5.0% | 0.855 |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 全学部

京都ノートルダム女子大学

| | | | |
|------|------|-------|-----|
| 集計単位 | 全学部 | | |
| 履修者数 | | 全科目数 | |
| 回答者数 | 4404 | 実施科目数 | 432 |
| 対象者数 | 0 | | |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 |
|-------------|---------------------|-------|-------|-------|-------|--------|----------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | 合計 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 320 | 271 | 213 | 56 | | 860 |
| | | 49.8% | 20.9% | 25.6% | 16.3% | | 27.2% |
| 国際日本文化学科 | | 274 | 377 | 171 | 57 | | 879 |
| | | 51.5% | 43.3% | 36.6% | 28.2% | | 41.9% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 現代人間学部 | 生活環境学科 | 384 | 309 | 114 | 22 | | 829 |
| | 福祉生活デザイン学科 | 65.5% | 36.5% | 28.4% | 19.1% | | 42.1% |
| | 心理学科 | 519 | 345 | 113 | 17 | | 994 |
| | | 60.6% | 25.9% | 15.8% | 7.8% | | 31.9% |
| こども教育学科 | | 413 | 299 | 103 | 21 | | 836 |
| | | 55.7% | 27.8% | 20.0% | 11.6% | | 33.0% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 6 | | 6 |
| | | | | | 54.5% | | 42.9% |
| 合計 | 1910 | 1601 | 714 | 173 | 6 | | 4404 |
| 学年別回答率 | 56.9% | 29.6% | 24.4% | -1.5% | 54.5% | | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない 4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.5 | 2817 | 1250 | 232 | 41 | 32 | 15 | 4387 | 17 | 0.565 |
| | | | 64.0% | 28.4% | 5.3% | 0.9% | 0.7% | 0.3% | 99.6% | 0.4% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 2381 | 1335 | 411 | 154 | 81 | 30 | 4392 | 12 | 1.087 |
| | | | 54.1% | 30.3% | 9.3% | 3.5% | 1.8% | 0.7% | 99.7% | 0.3% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 2364 | 1365 | 447 | 84 | 75 | 38 | 4373 | 25 | 0.506 |
| | | | 53.7% | 31.0% | 10.1% | 1.9% | 1.7% | 0.9% | 99.3% | 0.6% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.7 | 2334 | 1322 | 433 | 141 | 87 | 62 | 4379 | 25 | 1.079 |
| | | | 53.0% | 30.0% | 9.8% | 3.2% | 2.0% | 1.4% | 99.4% | 0.6% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.8 | 2348 | 1265 | 491 | 121 | 91 | 71 | 4387 | 17 | 0.506 |
| | | | 53.3% | 28.7% | 11.1% | 2.7% | 2.1% | 1.6% | 99.6% | 0.4% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 2268 | 1390 | 465 | 145 | 99 | 15 | 4382 | 22 | 0.496 |
| | | | 51.5% | 31.6% | 10.6% | 3.3% | 2.2% | 0.3% | 99.5% | 0.5% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.4 | 2142 | 892 | 325 | 83 | 38 | 866 | 4346 | 58 | 2.119 |
| | | | 48.6% | 20.3% | 7.4% | 1.9% | 0.9% | 19.7% | 98.7% | 1.3% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 1992 | 1747 | 406 | 138 | 73 | 14 | 4370 | 34 | 0.580 |
| | | | 45.2% | 39.7% | 9.2% | 3.1% | 1.7% | 0.3% | 99.2% | 0.8% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.4 | 3325 | 701 | 202 | 49 | 44 | 60 | 4381 | 23 | 1.050 |
| | | | 75.5% | 15.9% | 4.6% | 1.1% | 1.0% | 1.4% | 99.5% | 0.5% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.5 | 196 | 690 | 1410 | 1172 | 612 | 296 | 4376 | 28 | 1.379 |
| | | | 4.5% | 15.7% | 32.0% | 26.6% | 13.9% | 6.7% | 99.4% | 0.6% | |

【学習成果(4年間で育てたい力 ND6)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 1800 | 1435 | 744 | 136 | 108 | 137 | 4360 | 44 | 1.038 |
| | | | 40.9% | 32.6% | 16.9% | 3.1% | 2.5% | 3.1% | 99.0% | 1.0% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.7 | 2331 | 1470 | 366 | 92 | 60 | 46 | 4365 | 39 | 1.023 |
| | | | 52.9% | 33.4% | 8.3% | 2.1% | 1.4% | 1.0% | 99.1% | 0.9% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.4 | 1464 | 1224 | 912 | 198 | 143 | 419 | 4360 | 44 | 1.424 |
| | | | 33.2% | 27.8% | 20.7% | 4.5% | 3.2% | 9.5% | 99.0% | 1.0% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.0 | 1806 | 1578 | 646 | 126 | 89 | 113 | 4358 | 46 | 1.035 |
| | | | 41.0% | 35.8% | 14.7% | 2.9% | 2.0% | 2.6% | 99.0% | 1.0% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.5 | 1330 | 1176 | 1077 | 208 | 171 | 391 | 4353 | 51 | 1.167 |
| | | | 30.2% | 26.7% | 24.5% | 4.7% | 3.9% | 8.9% | 98.8% | 1.2% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.3 | 1494 | 1347 | 970 | 181 | 131 | 243 | 4366 | 38 | 1.245 |
| | | | 33.9% | 30.6% | 22.0% | 4.1% | 3.0% | 5.5% | 99.1% | 0.9% | |

2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | | | |
|------|--------|-------|----|
| 集計単位 | 共通教育科目 | | |
| 履修者数 | 4025 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 1570 | 実施科目数 | 99 |

| 学部学科 | | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|------------|---------------------|-------------|-------------|-------------|--------|--------------|----|
| | | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 137 51.1% | 56 20.1% | 46 22.5% | 5 4.7% | | 244 27.9% | |
| | 国際日本文化学科 | 167 50.2% | 80 38.8% | 24 25.0% | 18 31.0% | | 289 40.8% | |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 | |
| 心理学部 | | | | | 0 0.0% | | 0 0.0% | |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 226 64.2% | 76 32.9% | 11 23.9% | 1 6.3% | | 314 48.4% | |
| | 心理学科 | 336 61.7% | 63 24.8% | 19 18.6% | 4 8.3% | | 422 44.5% | |
| | こども教育学科 | 238 56.8% | 46 22.2% | 13 10.7% | 4 5.3% | | 301 36.0% | |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 0 | | 0 | |
| 合計 | | 1104 | 321 | 113 | 32 | 0 | 1570 | |
| 学年別回答率 | | 57.6% | 27.3% | 19.9% | 8.8% | | 39.0% | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

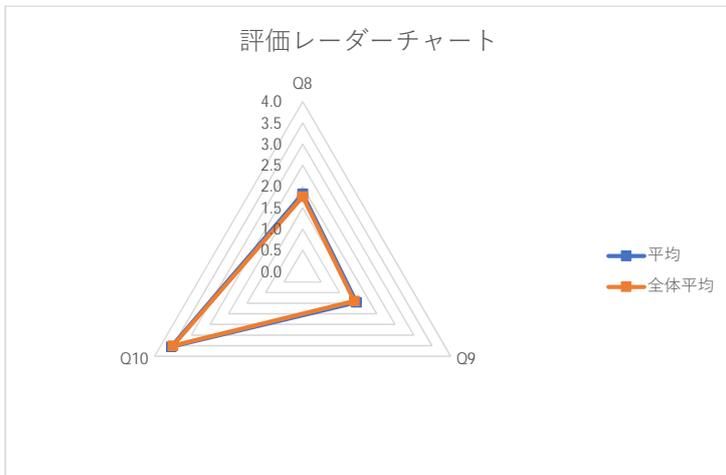
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|--------------|--------------|------------|------------|--------------|---------------|------------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.5 | 1034 65.9% | 405 25.8% | 99 6.3% | 10 0.6% | 14 0.9% | 6 0.4% | 1568 99.9% | 2 0.1% | 1.046 |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.8 | 851 54.2% | 430 27.4% | 166 10.6% | 69 4.4% | 37 2.4% | 14 0.9% | 1567 99.8% | 3 0.2% | 1.137 |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 891 56.8% | 426 27.1% | 160 10.2% | 35 2.2% | 39 2.5% | 14 0.9% | 1565 99.7% | 5 0.3% | 1.518 |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.8 | 819 52.2% | 439 28.0% | 169 10.8% | 71 4.5% | 42 2.7% | 20 1.3% | 1560 99.4% | 10 0.6% | 0.999 |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.8 | 815 51.9% | 434 27.6% | 194 12.4% | 50 3.2% | 41 2.6% | 32 2.0% | 1566 99.7% | 4 0.3% | 1.000 |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.9 | 759 48.3% | 463 29.5% | 195 12.4% | 75 4.8% | 64 4.1% | 10 0.6% | 1566 99.7% | 4 0.3% | 1.231 |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.7 | 731 46.6% | 259 16.5% | 113 7.2% | 22 1.4% | 12 0.8% | 405 25.8% | 1542 98.2% | 28 1.8% | 0.923 |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|---------------|-----------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 717 45.7% | 569 36.2% | 164 10.4% | 59 3.8% | 43 2.7% | 9 0.6% | 1561 99.4% | 9 0.6% | 1.273 |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.5 | 1172 74.6% | 236 15.0% | 73 4.6% | 23 1.5% | 23 1.5% | 34 2.2% | 1561 99.4% | 9 0.6% | 0.933 |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.5 | 65 4.1% | 230 14.6% | 500 31.8% | 432 27.5% | 226 14.4% | 110 7.0% | 1563 99.6% | 7 0.4% | 1.214 |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|------------|------------|--------------|---------------|------------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 3.7 | 615 39.2% | 483 30.8% | 290 18.5% | 52 3.3% | 58 3.7% | 57 3.6% | 1555 99.0% | 15 1.0% | 1.694 |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.8 | 804 51.2% | 488 31.1% | 168 10.7% | 43 2.7% | 32 2.0% | 19 1.2% | 1554 99.0% | 16 1.0% | 1.051 |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.6 | 494 31.5% | 418 26.6% | 325 20.7% | 71 4.5% | 76 4.8% | 168 10.7% | 1552 98.9% | 18 1.1% | 1.986 |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.1 | 595 37.9% | 517 32.9% | 288 18.3% | 57 3.6% | 48 3.1% | 48 3.1% | 1553 98.9% | 17 1.1% | 1.720 |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.7 | 426 27.1% | 382 24.3% | 405 25.8% | 87 5.5% | 74 4.7% | 175 11.1% | 1549 98.7% | 21 1.3% | 1.892 |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.4 | 493 31.4% | 458 29.2% | 378 24.1% | 71 4.5% | 55 3.5% | 100 6.4% | 1555 99.0% | 15 1.0% | 1.755 |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別
 京都ノートルダム女子大学

| | | | |
|------|--------------|--|--|
| 集計単位 | 英語英文学科専門教育科目 | | |
|------|--------------|--|--|

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 2064 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 553 | 実施科目数 | 99 |

| 学部学科 | | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|------------|---------------------|--------------|--------------|-------------|--------|--------------|----|
| | | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 182 48.9% | 196 21.0% | 136 25.9% | 33 18.4% | | 547 26.8% | |
| | 国際日本文化学科 | 0 | 0 | 2 | 2 | | 4 30.8% | |
| 生活福祉文化学部 | | | | | | 0 | 0 | |
| 心理学部 | | | | | | 0 | 0 | |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 1 100.0% | 0 | 0 | 0 | | 1 33.3% | |
| | 心理学科 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 1 20.0% | |
| | こども教育学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 0.0% | |
| 科目等履修生, その他 | | | | | | 0 | 0 | |
| 合計 | | 183 | 197 | 138 | 35 | 0 | 553 | |
| 学年別回答率 | | 49.1% | 21.0% | 25.7% | 16.1% | | 26.8% | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
 4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

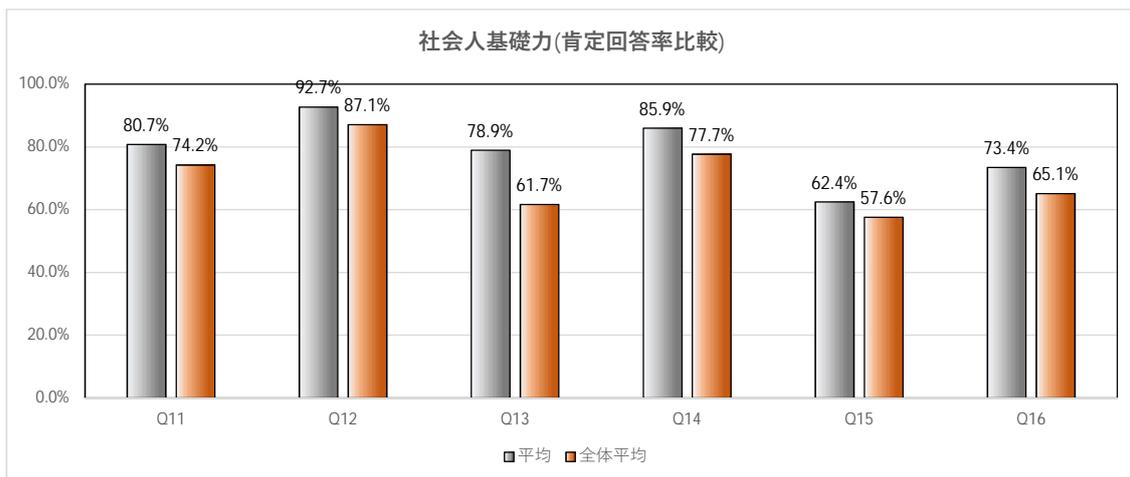
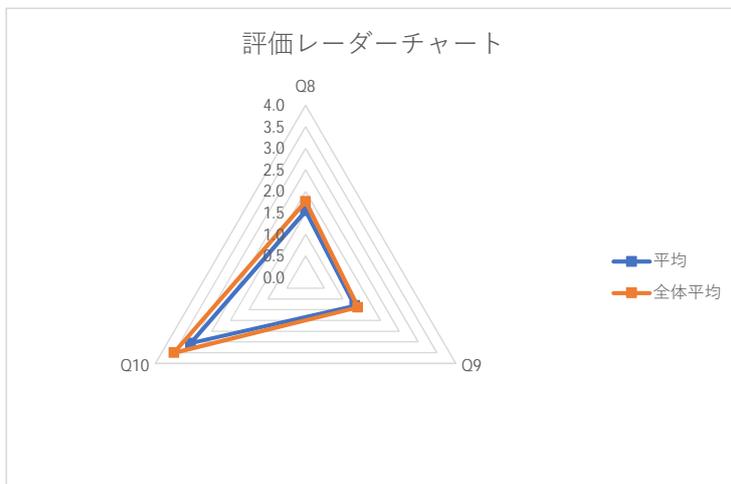
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.4 | 404 | 114 | 15 | 8 | 5 | 3 | 549 | 4 | 0.816 |
| | | | 73.1% | 20.6% | 2.7% | 1.4% | 0.9% | 0.5% | 99.3% | 0.7% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.6 | 348 | 136 | 34 | 21 | 4 | 5 | 548 | 5 | 0.957 |
| | | | 62.9% | 24.6% | 6.1% | 3.8% | 0.7% | 0.9% | 99.1% | 0.9% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 325 | 134 | 50 | 19 | 10 | 10 | 548 | 5 | 1.000 |
| | | | 58.8% | 24.2% | 9.0% | 3.4% | 1.8% | 1.8% | 99.1% | 0.9% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.5 | 364 | 126 | 27 | 15 | 10 | 7 | 549 | 4 | 0.816 |
| | | | 65.8% | 22.8% | 4.9% | 2.7% | 1.8% | 1.3% | 99.3% | 0.7% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.6 | 374 | 104 | 31 | 20 | 9 | 9 | 547 | 6 | 0.957 |
| | | | 67.6% | 18.8% | 5.6% | 3.6% | 1.6% | 1.6% | 98.9% | 1.1% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.5 | 345 | 143 | 40 | 12 | 7 | 1 | 548 | 5 | 0.957 |
| | | | 62.4% | 25.9% | 7.2% | 2.2% | 1.3% | 0.2% | 99.1% | 0.9% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.3 | 307 | 88 | 26 | 6 | 4 | 111 | 542 | 11 | 2.363 |
| | | | 55.5% | 15.9% | 4.7% | 1.1% | 0.7% | 20.1% | 98.0% | 2.0% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.5 | 321 | 171 | 34 | 14 | 3 | 0 | 543 | 10 | 1.000 |
| | | | 58.0% | 30.9% | 6.1% | 2.5% | 0.5% | 0.0% | 98.2% | 1.8% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.3 | 437 | 76 | 22 | 5 | 4 | 4 | 548 | 5 | 0.000 |
| | | | 79.0% | 13.7% | 4.0% | 0.9% | 0.7% | 0.7% | 99.1% | 0.9% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.1 | 44 | 115 | 220 | 111 | 45 | 11 | 546 | 7 | 0.500 |
| | | | 8.0% | 20.8% | 39.8% | 20.1% | 8.1% | 2.0% | 98.7% | 1.3% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 306 | 134 | 74 | 13 | 5 | 13 | 545 | 8 | 1.155 |
| | | | 55.3% | 24.2% | 13.4% | 2.4% | 0.9% | 2.4% | 98.6% | 1.4% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.4 | 367 | 139 | 28 | 4 | 4 | 4 | 546 | 7 | 0.957 |
| | | | 66.4% | 25.1% | 5.1% | 0.7% | 0.7% | 0.7% | 98.7% | 1.3% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 1.9 | 301 | 130 | 66 | 17 | 7 | 25 | 546 | 7 | 1.155 |
| | | | 54.4% | 23.5% | 11.9% | 3.1% | 1.3% | 4.5% | 98.7% | 1.3% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.7 | 311 | 159 | 54 | 10 | 5 | 8 | 547 | 6 | 0.957 |
| | | | 56.2% | 28.8% | 9.8% | 1.8% | 0.9% | 1.4% | 98.9% | 1.1% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.4 | 221 | 121 | 110 | 24 | 16 | 56 | 548 | 5 | 2.449 |
| | | | 40.0% | 21.9% | 19.9% | 4.3% | 2.9% | 10.1% | 99.1% | 0.9% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.1 | 254 | 147 | 84 | 12 | 13 | 36 | 546 | 7 | 2.363 |
| | | | 45.9% | 26.6% | 15.2% | 2.2% | 2.4% | 6.5% | 98.7% | 1.3% | |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | |
|------|---------------|
| 集計単位 | 国際日本文化科専門教育科目 |
|------|---------------|

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1289 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 498 | 実施科目数 | 54 |

| 学部学科 | | 上段：回答数 | | 下段：回答率 (%) | | | 合計 | 所属学科別回答率 |
|-------------|------------|--------|--------|------------|-------|--------|-------|----------|
| | | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | 科目等履修生 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 6 | 7 | 11 | | 24 | |
| | | | 24.0% | 18.9% | 37.9% | | 26.4% | |
| | 国際日本文化学科 | 98 | 228 | 112 | 30 | | 468 | |
| | | 51.9% | 40.7% | 37.3% | 26.5% | | 40.0% | |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 | |
| 心理学部 | | | | | 0 | | 0 | |
| | | | | | 0.0% | | 0.0% | |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 3 | 0 | 0 | | 3 | |
| | | | 42.9% | | | | 42.9% | |
| | 心理学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | |
| | | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | | 0.0% | |
| | こども教育学科 | 0 | 2 | 0 | 0 | | 2 | |
| | | | 100.0% | 0.0% | 0.0% | | 50.0% | |
| 科目等履修生, その他 | | | | | | 1 | 1 | |
| | | | | | | 20.0% | 20.0% | |
| 合計 | | 98 | 239 | 119 | 41 | 1 | 498 | |
| 学年別回答率 | | 51.9% | 40.1% | 34.5% | 26.5% | 20.0% | 38.6% | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

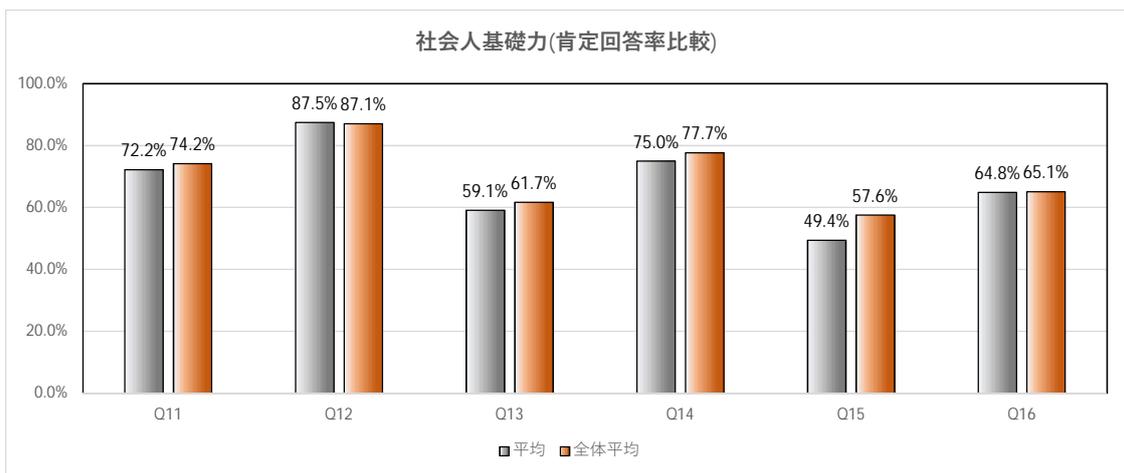
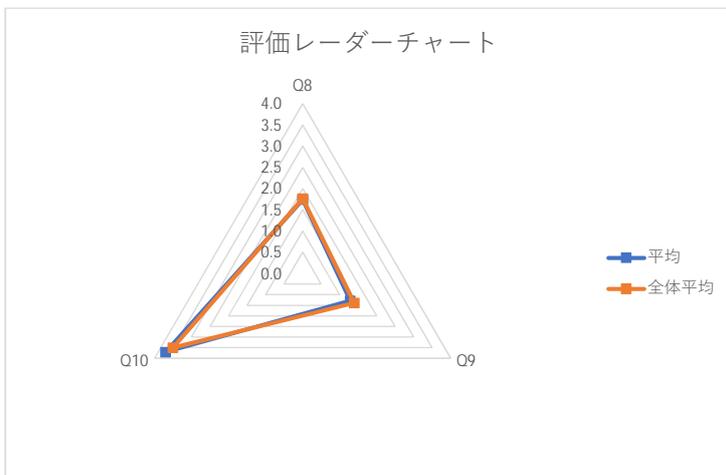
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.5 | 312 | 143 | 33 | 5 | 3 | 0 | 496 | 2 | 0.624 |
| | | | 62.7% | 28.7% | 6.6% | 1.0% | 0.6% | 0.0% | 99.6% | 0.4% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.8 | 243 | 168 | 49 | 20 | 14 | 4 | 498 | 0 | 1.251 |
| | | | 48.8% | 33.7% | 9.8% | 4.0% | 2.8% | 0.8% | 100.0% | 0.0% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.7 | 250 | 177 | 50 | 12 | 5 | 0 | 494 | 4 | 0.479 |
| | | | 50.2% | 35.5% | 10.0% | 2.4% | 1.0% | 0.0% | 99.2% | 0.8% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.8 | 258 | 154 | 50 | 12 | 10 | 11 | 495 | 3 | 0.602 |
| | | | 51.8% | 30.9% | 10.0% | 2.4% | 2.0% | 2.2% | 99.4% | 0.6% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.7 | 279 | 132 | 53 | 15 | 11 | 8 | 498 | 0 | 0.332 |
| | | | 56.0% | 26.5% | 10.6% | 3.0% | 2.2% | 1.6% | 100.0% | 0.0% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 258 | 158 | 52 | 18 | 9 | 1 | 496 | 2 | 0.624 |
| | | | 51.8% | 31.7% | 10.4% | 3.6% | 1.8% | 0.2% | 99.6% | 0.4% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.1 | 255 | 123 | 51 | 8 | 6 | 53 | 496 | 2 | 0.883 |
| | | | 51.2% | 24.7% | 10.2% | 1.6% | 1.2% | 10.6% | 99.6% | 0.4% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.7 | 224 | 202 | 51 | 14 | 4 | 1 | 496 | 2 | 0.686 |
| | | | 45.0% | 40.6% | 10.2% | 2.8% | 0.8% | 0.2% | 99.6% | 0.4% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.3 | 392 | 79 | 19 | 3 | 3 | 1 | 497 | 1 | 0.728 |
| | | | 78.7% | 15.9% | 3.8% | 0.6% | 0.6% | 0.2% | 99.8% | 0.2% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.7 | 14 | 57 | 164 | 128 | 95 | 39 | 497 | 1 | 1.166 |
| | | | 2.8% | 11.4% | 32.9% | 25.7% | 19.1% | 7.8% | 99.8% | 0.2% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 3.6 | 183 | 173 | 85 | 29 | 7 | 16 | 493 | 5 | 1.219 |
| | | | 36.7% | 34.7% | 17.1% | 5.8% | 1.4% | 3.2% | 99.0% | 1.0% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.7 | 239 | 195 | 43 | 15 | 3 | 1 | 496 | 2 | 0.618 |
| | | | 48.0% | 39.2% | 8.6% | 3.0% | 0.6% | 0.2% | 99.6% | 0.4% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.5 | 133 | 160 | 119 | 27 | 8 | 49 | 496 | 2 | 1.463 |
| | | | 26.7% | 32.1% | 23.9% | 5.4% | 1.6% | 9.8% | 99.6% | 0.4% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 2.0 | 192 | 177 | 78 | 18 | 8 | 19 | 492 | 6 | 0.514 |
| | | | 38.6% | 35.5% | 15.7% | 3.6% | 1.6% | 3.8% | 98.8% | 1.2% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.7 | 123 | 121 | 148 | 23 | 25 | 54 | 494 | 4 | 1.618 |
| | | | 24.7% | 24.3% | 29.7% | 4.6% | 5.0% | 10.8% | 99.2% | 0.8% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.3 | 166 | 155 | 114 | 21 | 10 | 29 | 495 | 3 | 0.935 |
| | | | 33.3% | 31.1% | 22.9% | 4.2% | 2.0% | 5.8% | 99.4% | 0.6% | |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | |
|------|------------|
| 集計単位 | 現代人間学部共通科目 |
|------|------------|

| | | | |
|------|-----|-------|---|
| 履修者数 | 118 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 29 | 実施科目数 | 6 |

| 学部学科 | | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|------------|---------------------|-------|-------|-------|--------|----------|-------|
| | | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 1 | 1 | 0 | | 2 | 66.7% |
| | 国際日本文化学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0.0% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | | | 0 | 0.0% |
| 心理学部 | | | | | | | 0 | 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 3 | 6 | 2 | 0 | | 11 | 37.9% |
| | 心理学科 | 1 | 5 | 2 | 1 | | 9 | 18.8% |
| | こども教育学科 | 1 | 4 | 0 | 2 | | 7 | 18.9% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | | 0 | 0 | 0.0% |
| 合計 | | 5 | 16 | 5 | 3 | 0 | 29 | 24.6% |
| 学年別回答率 | | 41.7% | 21.9% | 27.8% | 18.8% | | | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

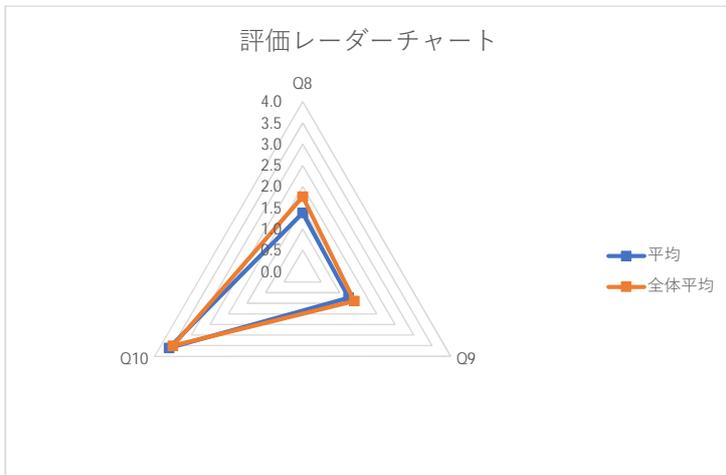
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.3 | 21 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0.467 |
| | | | 72.4% | 27.6% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.3 | 20 | 8 | 1 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0.302 |
| | | | 69.0% | 27.6% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.5 | 21 | 3 | 4 | 1 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0.809 |
| | | | 72.4% | 10.3% | 13.8% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.4 | 22 | 2 | 5 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0.647 |
| | | | 75.9% | 6.9% | 17.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.7 | 19 | 4 | 5 | 0 | 0 | 1 | 29 | 0 | 0.820 |
| | | | 65.5% | 13.8% | 17.2% | 0.0% | 0.0% | 3.4% | 100.0% | 0.0% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心のある内容であった。 | 1.4 | 20 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 28 | 1 | 0.316 |
| | | | 69.0% | 17.2% | 10.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 96.6% | 3.4% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.6 | 17 | 3 | 1 | 0 | 0 | 8 | 29 | 0 | 2.611 |
| | | | 58.6% | 10.3% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 27.6% | 100.0% | 0.0% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.4 | 19 | 9 | 1 | 0 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0.467 |
| | | | 65.5% | 31.0% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.2 | 26 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 29 | 0 | 0.000 |
| | | | 89.7% | 6.9% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 3.4% | 100.0% | 0.0% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.6 | 2 | 6 | 4 | 8 | 5 | 3 | 28 | 1 | 1.250 |
| | | | 6.9% | 20.7% | 13.8% | 27.6% | 17.2% | 10.3% | 96.6% | 3.4% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|-------|------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 1.7 | 14 | 10 | 2 | 1 | 0 | 1 | 28 | 1 | 1.414 |
| | | | 48.3% | 34.5% | 6.9% | 3.4% | 0.0% | 3.4% | 96.6% | 3.4% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.4 | 20 | 6 | 2 | 1 | 0 | 0 | 29 | 0 | 0.522 |
| | | | 69.0% | 20.7% | 6.9% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.4 | 10 | 7 | 6 | 2 | 3 | 1 | 29 | 0 | 1.221 |
| | | | 34.5% | 24.1% | 20.7% | 6.9% | 10.3% | 3.4% | 100.0% | 0.0% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.8 | 13 | 11 | 4 | 0 | 1 | 0 | 29 | 0 | 0.647 |
| | | | 44.8% | 37.9% | 13.8% | 0.0% | 3.4% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.0 | 11 | 10 | 5 | 1 | 1 | 0 | 28 | 1 | 0.701 |
| | | | 37.9% | 34.5% | 17.2% | 3.4% | 3.4% | 0.0% | 96.6% | 3.4% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.1 | 11 | 10 | 4 | 1 | 3 | 0 | 29 | 0 | 1.104 |
| | | | 37.9% | 34.5% | 13.8% | 3.4% | 10.3% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 福祉生活デザイン学科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1856 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 694 | 実施科目数 | 76 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|-------------|----------|--------------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 1 50.0% | 5 100.0% | 10 83.3% | 3 18.8% | | 19 52.8% |
| | 国際日本文化学科 | 9 90.0% | 37 77.1% | 14 58.3% | 3 25.0% | | 63 66.3% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 0.0% | | 0 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 154 67.5% | 221 39.8% | 101 28.9% | 19 20.0% | | 495 39.9% |
| | 心理学科 | 20 64.5% | 37 23.6% | 25 19.4% | 4 6.3% | | 86 22.6% |
| | こども教育学科 | 0 0.0% | 26 32.1% | 3 30.0% | 1 12.5% | | 30 29.7% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 1 100.0% | | 1 100.0% |
| 合計 | | 184 | 326 | 153 | 30 | | 694 |
| 学年別回答率 | | 67.6% | 38.5% | 29.2% | 14.0% | 100.0% | 37.4% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

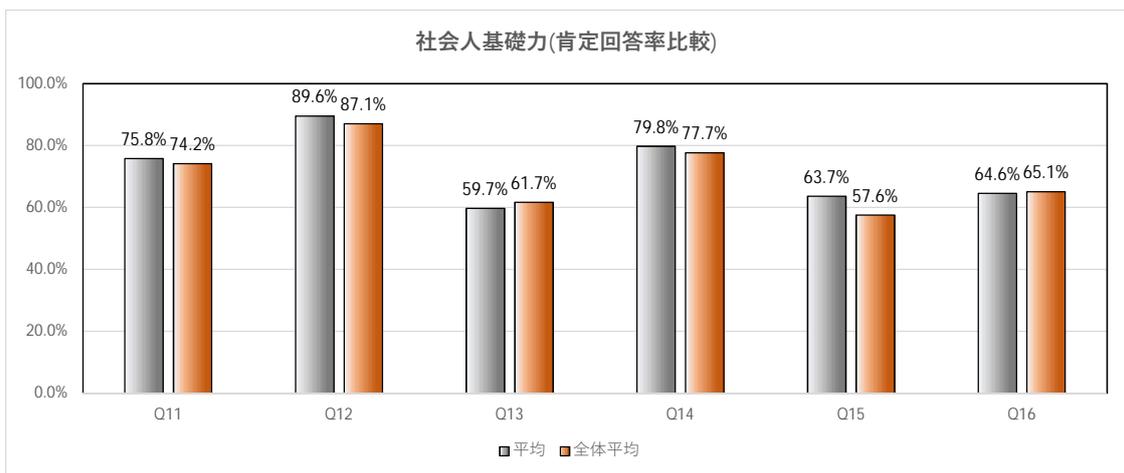
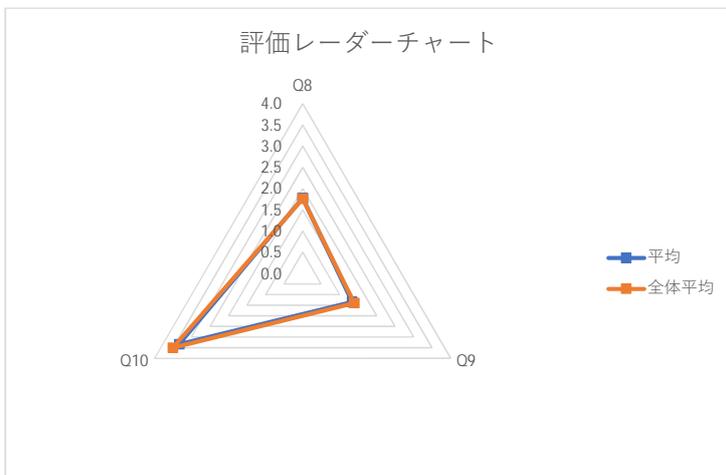
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|--------------|-------------|------------|------------|------------|--------------|-----------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.5 | 425 61.2% | 225 32.4% | 28 4.0% | 6 0.9% | 3 0.4% | 3 0.4% | 690 99.4% | 4 0.6% | 0.686 |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 359 51.7% | 235 33.9% | 63 9.1% | 18 2.6% | 13 1.9% | 5 0.7% | 693 99.9% | 1 0.1% | 1.191 |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.6 | 366 52.7% | 228 32.9% | 73 10.5% | 8 1.2% | 8 1.2% | 3 0.4% | 686 98.8% | 8 1.2% | 0.686 |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.8 | 346 49.9% | 224 32.3% | 75 10.8% | 22 3.2% | 14 2.0% | 10 1.4% | 691 99.6% | 3 0.4% | 0.999 |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.8 | 352 50.7% | 226 32.6% | 73 10.5% | 18 2.6% | 15 2.2% | 8 1.2% | 692 99.7% | 2 0.3% | 0.716 |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 340 49.0% | 264 38.0% | 60 8.6% | 19 2.7% | 7 1.0% | 2 0.3% | 692 99.7% | 2 0.3% | 0.513 |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.0 | 371 53.5% | 184 26.5% | 50 7.2% | 14 2.0% | 5 0.7% | 65 9.4% | 689 99.3% | 5 0.7% | 1.164 |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|--------------|-------------|------------|--------------|-----------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 284 40.9% | 321 46.3% | 55 7.9% | 22 3.2% | 8 1.2% | 1 0.1% | 691 99.6% | 3 0.4% | 1.165 |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.3 | 526 75.8% | 122 17.6% | 32 4.6% | 6 0.9% | 3 0.4% | 4 0.6% | 693 99.9% | 1 0.1% | 0.571 |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.3 | 44 6.3% | 135 19.5% | 212 30.5% | 183 26.4% | 75 10.8% | 40 5.8% | 689 99.3% | 5 0.7% | 1.468 |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|--------------|--------------|------------|------------|-------------|--------------|-----------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.2 | 276 39.8% | 247 35.6% | 122 17.6% | 15 2.2% | 5 2.2% | 15 2.2% | 690 99.4% | 4 0.6% | 0.765 |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.6 | 369 53.2% | 249 35.9% | 48 6.9% | 11 1.6% | 10 1.4% | 3 0.4% | 690 99.4% | 4 0.6% | 0.513 |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.6 | 200 28.8% | 212 30.5% | 149 21.5% | 32 4.6% | 19 2.7% | 78 11.2% | 690 99.4% | 4 0.6% | 1.735 |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.9 | 260 37.5% | 292 42.1% | 100 14.4% | 14 2.0% | 13 1.9% | 13 1.9% | 692 99.7% | 2 0.3% | 0.716 |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.3 | 219 31.6% | 219 31.6% | 161 23.2% | 22 3.2% | 18 2.6% | 49 7.1% | 688 99.1% | 6 0.9% | 0.681 |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.3 | 224 32.3% | 223 32.1% | 160 23.1% | 30 4.3% | 25 3.6% | 30 4.3% | 692 99.7% | 2 0.3% | 0.973 |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | |
|------|------------|
| 集計単位 | 心理学部専門教育科目 |
|------|------------|

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1761 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 490 | 実施科目数 | 28 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|---------------------|-------|-------|--------|--------|----------|-------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 0 | 0 | 1 | | 1 |
| | | | | 0.0% | 50.0% | | 12.5% |
| 国際日本文化学科 | | 0 | 6 | 2 | 0 | | 8 |
| | | | 85.7% | 100.0% | 0.0% | | 80.0% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 | | 0 |
| | | | | 0.0% | | | 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 1 |
| | | | 33.3% | | | | 33.3% |
| | 心理学科 | 162 | 239 | 67 | 8 | | 476 |
| | | 58.7% | 27.0% | 14.3% | 8.1% | | 27.6% |
| こども教育学科 | 0 | 0 | 1 | 0 | | 1 | |
| | | | 25.0% | | | | 25.0% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 2 | | 2 |
| | | | | | 40.0% | | 40.0% |
| 合計 | 162 | 246 | 70 | 9 | 2 | | 489 |
| 学年別回答率 | 58.7% | 27.5% | 14.6% | 8.3% | 40.0% | | 27.8% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

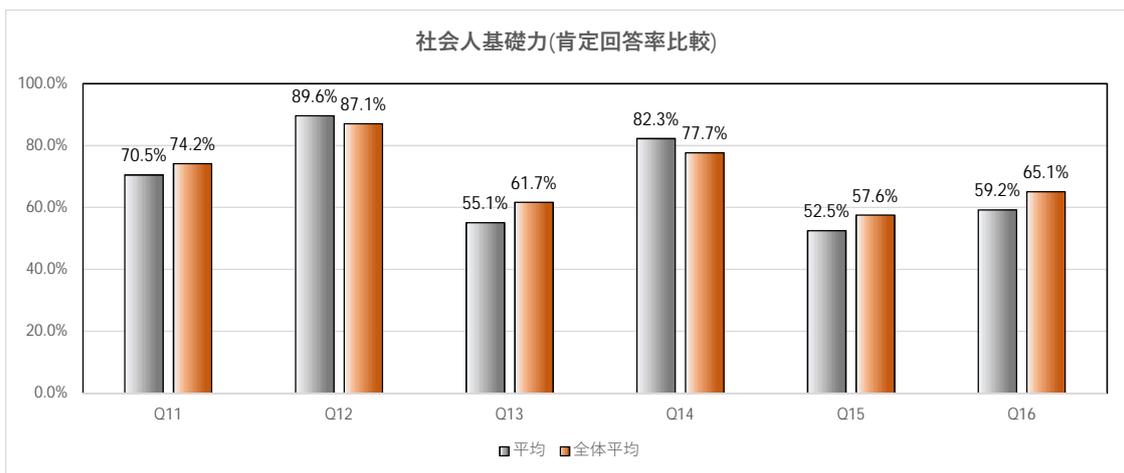
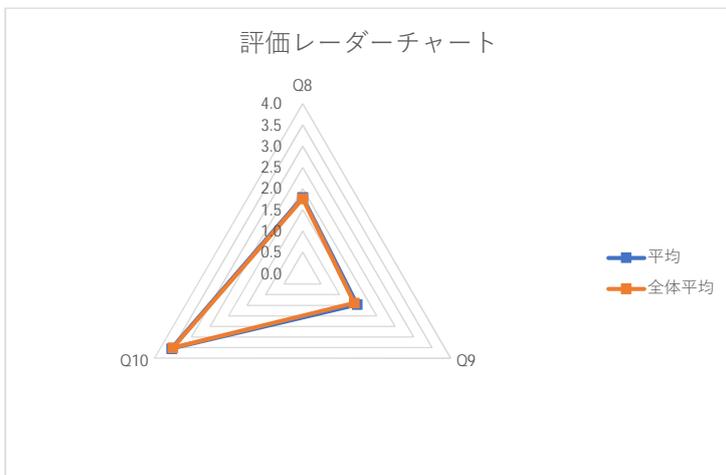
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|------|------|------|-------|--------|-------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.4 | 305 | 170 | 9 | 2 | 2 | 2 | 490 | -1 | 0.482 |
| | | | 62.2% | 34.7% | 1.8% | 0.4% | 0.4% | 0.4% | 100.2% | -0.2% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.6 | 267 | 174 | 30 | 14 | 4 | 1 | 490 | -1 | 0.532 |
| | | | 54.5% | 35.5% | 6.1% | 2.9% | 0.8% | 0.2% | 100.2% | -0.2% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.6 | 239 | 204 | 34 | 4 | 4 | 3 | 488 | 1 | 0.509 |
| | | | 48.8% | 41.6% | 6.9% | 0.8% | 0.8% | 0.6% | 99.8% | 0.2% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.7 | 236 | 190 | 39 | 9 | 3 | 11 | 488 | 1 | 1.100 |
| | | | 48.2% | 38.8% | 8.0% | 1.8% | 0.6% | 2.2% | 99.8% | 0.2% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.7 | 250 | 183 | 37 | 5 | 6 | 7 | 488 | 1 | 0.509 |
| | | | 51.0% | 37.3% | 7.6% | 1.0% | 1.2% | 1.4% | 99.8% | 0.2% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.6 | 245 | 185 | 43 | 11 | 3 | 0 | 487 | 2 | 0.487 |
| | | | 50.0% | 37.8% | 8.8% | 2.2% | 0.6% | 0.0% | 99.6% | 0.4% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 3.3 | 169 | 86 | 31 | 15 | 8 | 178 | 487 | 2 | 2.102 |
| | | | 34.5% | 17.6% | 6.3% | 3.1% | 1.6% | 36.3% | 99.6% | 0.4% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 181 | 246 | 40 | 13 | 5 | 0 | 485 | 4 | 0.504 |
| | | | 36.9% | 50.2% | 8.2% | 2.7% | 1.0% | 0.0% | 99.2% | 0.8% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.5 | 353 | 91 | 24 | 5 | 0 | 15 | 488 | 1 | 1.056 |
| | | | 72.0% | 18.6% | 4.9% | 1.0% | 0.0% | 3.1% | 99.8% | 0.2% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。 | 3.5 | 16 | 84 | 153 | 130 | 65 | 39 | 487 | 2 | 1.259 |
| | | | 3.3% | 17.1% | 31.2% | 26.5% | 13.3% | 8.0% | 99.6% | 0.4% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.3 | 153 | 189 | 93 | 8 | 13 | 29 | 485 | 4 | 1.044 |
| | | | 31.2% | 38.6% | 19.0% | 1.6% | 2.7% | 5.9% | 99.2% | 0.8% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.7 | 239 | 194 | 26 | 5 | 4 | 15 | 483 | 6 | 1.080 |
| | | | 48.8% | 39.6% | 5.3% | 1.0% | 0.8% | 3.1% | 98.8% | 1.2% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.6 | 127 | 139 | 129 | 27 | 16 | 45 | 483 | 6 | 1.622 |
| | | | 25.9% | 28.4% | 26.3% | 5.5% | 3.3% | 9.2% | 98.8% | 1.2% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.9 | 180 | 219 | 54 | 12 | 5 | 15 | 485 | 4 | 1.083 |
| | | | 36.7% | 44.7% | 11.0% | 2.4% | 1.0% | 3.1% | 99.2% | 0.8% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.6 | 119 | 135 | 150 | 26 | 22 | 32 | 484 | 5 | 1.179 |
| | | | 24.3% | 27.6% | 30.6% | 5.3% | 4.5% | 6.5% | 99.0% | 1.0% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.4 | 137 | 150 | 130 | 27 | 15 | 26 | 485 | 4 | 1.250 |
| | | | 28.0% | 30.6% | 26.5% | 5.5% | 3.1% | 5.3% | 99.2% | 0.8% | |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

集計単位 こども教育学科専門教育科目

| | | | |
|------|------|-------|----|
| 履修者数 | 1508 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 481 | 実施科目数 | 54 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 合計 |
|-------------|---------------------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 国際日本文化学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 生活福祉文化学部 | | | | | | 0 |
| 心理学部 | | | | | | 0 |
| | | | | | | 0.0% |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 心理学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | こども教育学科 | 174 | 219 | 80 | 8 | 481 |
| 科目等履修生, その他 | | | | | | 0 |
| 合計 | | | | | | 481 |
| 学年別回答率 | | | | | | 31.9% |
| | | 54.7% | 29.1% | 22.7% | 9.4% | |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

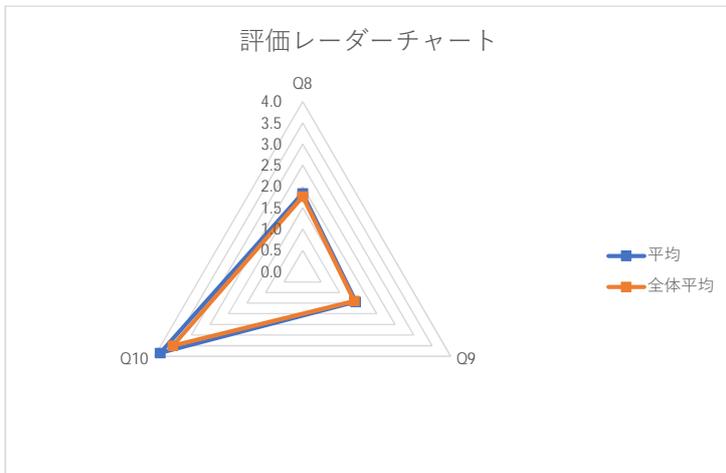
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.6 | 257 | 164 | 40 | 9 | 5 | 1 | 476 | 5 | 0.786 |
| | | | 53.4% | 34.1% | 8.3% | 1.9% | 1.0% | 0.2% | 99.0% | 1.0% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 246 | 159 | 55 | 10 | 7 | 1 | 478 | 3 | 0.786 |
| | | | 51.1% | 33.1% | 11.4% | 2.1% | 1.5% | 0.2% | 99.4% | 0.6% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.8 | 222 | 169 | 64 | 5 | 7 | 8 | 475 | 6 | 0.647 |
| | | | 46.2% | 35.1% | 13.3% | 1.0% | 1.5% | 1.7% | 98.8% | 1.2% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.7 | 233 | 166 | 58 | 12 | 6 | 3 | 478 | 3 | 0.751 |
| | | | 48.4% | 34.5% | 12.1% | 2.5% | 1.2% | 0.6% | 99.4% | 0.6% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.9 | 200 | 166 | 86 | 13 | 7 | 6 | 478 | 3 | 0.701 |
| | | | 41.6% | 34.5% | 17.9% | 2.7% | 1.5% | 1.2% | 99.4% | 0.6% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.7 | 249 | 151 | 59 | 7 | 9 | 1 | 476 | 5 | 0.751 |
| | | | 51.8% | 31.4% | 12.3% | 1.5% | 1.9% | 0.2% | 99.0% | 1.0% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 2.1 | 231 | 132 | 47 | 17 | 3 | 43 | 473 | 8 | 1.446 |
| | | | 48.0% | 27.4% | 9.8% | 3.5% | 0.6% | 8.9% | 98.3% | 1.7% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.8 | 199 | 200 | 50 | 16 | 9 | 3 | 477 | 4 | 0.603 |
| | | | 41.4% | 41.6% | 10.4% | 3.3% | 1.9% | 0.6% | 99.2% | 0.8% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.4 | 345 | 87 | 27 | 7 | 10 | 1 | 477 | 4 | 0.823 |
| | | | 71.7% | 18.1% | 5.6% | 1.5% | 2.1% | 0.2% | 99.2% | 0.8% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学習しましたか。 | 3.8 | 9 | 52 | 127 | 153 | 88 | 48 | 477 | 4 | 1.136 |
| | | | 1.9% | 10.8% | 26.4% | 31.8% | 18.3% | 10.0% | 99.2% | 0.8% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|-------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 208 | 176 | 67 | 12 | 7 | 5 | 475 | 6 | 0.632 |
| | | | 43.2% | 36.6% | 13.9% | 2.5% | 1.5% | 1.0% | 98.8% | 1.2% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.7 | 238 | 173 | 49 | 12 | 3 | 3 | 478 | 3 | 0.674 |
| | | | 49.5% | 36.0% | 10.2% | 2.5% | 0.6% | 0.6% | 99.4% | 0.6% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.3 | 170 | 140 | 100 | 18 | 7 | 40 | 475 | 6 | 0.944 |
| | | | 35.3% | 29.1% | 20.8% | 3.7% | 1.5% | 8.3% | 98.8% | 1.2% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.8 | 215 | 173 | 58 | 13 | 4 | 9 | 472 | 9 | 0.701 |
| | | | 44.7% | 36.0% | 12.1% | 2.7% | 0.8% | 1.9% | 98.1% | 1.9% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.1 | 170 | 171 | 83 | 19 | 11 | 20 | 474 | 7 | 0.632 |
| | | | 35.3% | 35.6% | 17.3% | 4.0% | 2.3% | 4.2% | 98.5% | 1.5% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.1 | 177 | 176 | 83 | 17 | 6 | 17 | 476 | 5 | 0.632 |
| | | | 36.8% | 36.6% | 17.3% | 3.5% | 1.2% | 3.5% | 99.0% | 1.0% | |



2021 年度前期 学生による授業評価アンケート集計結果表 開講所属別

京都ノートルダム女子大学

| | |
|------|-------|
| 集計単位 | 資格科目等 |
|------|-------|

| | | | |
|------|-----|-------|----|
| 履修者数 | 291 | 全科目数 | |
| 回答者数 | 89 | 実施科目数 | 15 |

| 学部学科 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | 科目等履修生 | 所属学科別回答率 | 合計 |
|-------------|---------------------|-------|-------|-------|--------|----------|-------|
| | 1年次生 | 2年次生 | 3年次生 | 4年次生 | | | |
| 国際言語文化学部 | 英語英文学科 | 0 | 7 | 13 | 3 | | 23 |
| | | | 13.5% | 28.9% | 33.3% | | 21.7% |
| 国際日本文化学部 | 国際日本文化学科 | 0 | 26 | 17 | 4 | | 47 |
| | | | 56.5% | 44.7% | 26.7% | | 47.5% |
| 生活福祉文化学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 心理学部 | | | | | 0 | | 0 |
| 現代人間学部 | 福祉生活デザイン学科 | 0 | 2 | 0 | 2 | | 4 |
| | | | 6.1% | | 100.0% | | 11.4% |
| | 心理学科 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| こども教育学科 | | 0 | 2 | 6 | 6 | | 14 |
| | | | 22.2% | 30.0% | 31.6% | | 29.2% |
| 科目等履修生, その他 | | | | | 1 | | 1 |
| | | | | | 33.3% | | 33.3% |
| 合計 | 0 | 37 | 36 | 15 | 1 | | 89 |
| 学年別回答率 | | 26.4% | 35.0% | 32.6% | 33.3% | | 30.6% |

※Q10以外 1：そう思う 2：どちらかと言えばそう思う 3：どちらとも言えない
4：どちらかと言えばそう思わない 5：そう思わない 6：該当しない

※Q10 1：4時間以上 2：2～4時間未満 3：1～2時間未満 4：30分～1時間未満 5：30分未満 6：0分

【授業の状況】

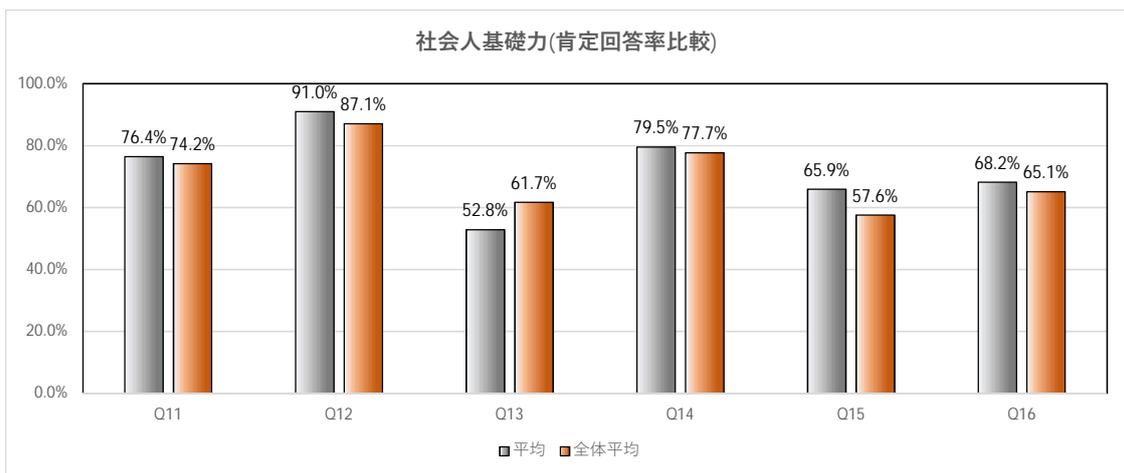
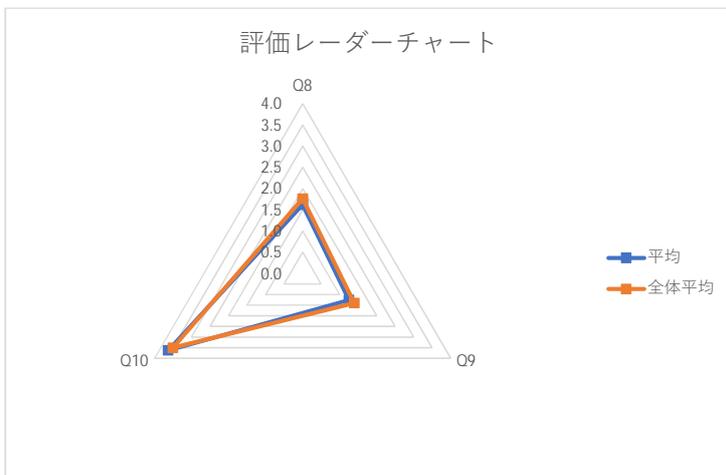
| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|--|------|---------------------|-------|-------|------|------|------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q1 | (1) 授業はシラバス(目標・内容・方法など)に沿った内容であり、変更が生じた場合も適切に示されていた。 | 1.4 | 59 | 21 | 8 | 1 | 0 | 0 | 89 | 0 | 0.633 |
| | | | 66.3% | 23.6% | 9.0% | 1.1% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q2 | (2) 授業中に使う教材(テキスト・配布資料など)は、わかりやすかった。 | 1.7 | 47 | 25 | 13 | 2 | 2 | 0 | 89 | 0 | 1.207 |
| | | | 52.8% | 28.1% | 14.6% | 2.2% | 2.2% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q3 | (3) 成績評価の仕方が明確に示されていた。 | 1.6 | 50 | 24 | 12 | 0 | 2 | 0 | 88 | 1 | 0.756 |
| | | | 56.2% | 27.0% | 13.5% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 98.9% | 1.1% | |
| Q4 | (4) 教員の説明・話し方は、わかりやすかった。 | 1.6 | 56 | 21 | 10 | 0 | 2 | 0 | 89 | 0 | 0.756 |
| | | | 62.9% | 23.6% | 11.2% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q5 | (5) 教員は学生の理解や反応に柔軟に応じて授業を進め、質問等には適切な返答があった。 | 1.5 | 59 | 16 | 12 | 0 | 2 | 0 | 89 | 0 | 0.611 |
| | | | 66.3% | 18.0% | 13.5% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q6 | (6) 授業は興味関心の持てる内容であった。 | 1.6 | 52 | 21 | 13 | 3 | 0 | 0 | 89 | 0 | 0.745 |
| | | | 58.4% | 23.6% | 14.6% | 3.4% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | |
| Q7 | (7) 授業の教室の広さや設備などは適切であった。 | 1.5 | 61 | 17 | 6 | 1 | 0 | 3 | 88 | 1 | 1.750 |
| | | | 68.5% | 19.1% | 6.7% | 1.1% | 0.0% | 3.4% | 98.9% | 1.1% | |

【学習の状況】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---------------------------------------|------|---------------------|-------|-------|-------|-------|------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q8 | (8) 授業の内容は理解できた。 | 1.6 | 47 | 29 | 11 | 0 | 1 | 0 | 88 | 1 | 0.611 |
| | | | 52.8% | 32.6% | 12.4% | 0.0% | 1.1% | 0.0% | 98.9% | 1.1% | |
| Q9 | (9) やむを得ぬ理由以外では遅刻・欠席をしなかった。 | 1.3 | 74 | 8 | 5 | 0 | 1 | 0 | 88 | 1 | 0.756 |
| | | | 83.1% | 9.0% | 5.6% | 0.0% | 1.1% | 0.0% | 98.9% | 1.1% | |
| Q10 | (10) この科目について授業以外1週間あたり、どのくらい学修しましたか。 | 3.6 | 2 | 11 | 30 | 27 | 13 | 6 | 89 | 0 | 0.760 |
| | | | 2.2% | 12.4% | 33.7% | 30.3% | 14.6% | 6.7% | 100.0% | 0.0% | |

【学習成果 (社会人基礎力)】

| No. | 設問文 | 全体平均 | 上段：回答数 / 下段：回答率 (%) | | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|-----------------------------|------|---------------------|-------|-------|------|------|-------|--------|------|-------|
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | | | |
| Q11 | (11) この授業で、「自分を育てる力」が向上した。 | 2.0 | 45 | 23 | 11 | 6 | 3 | 1 | 89 | 0 | 1.454 |
| | | | 50.6% | 25.8% | 12.4% | 6.7% | 3.4% | 1.1% | 100.0% | 0.0% | |
| Q12 | (12) この授業で、「知識・理解力」が向上した。 | 1.6 | 55 | 26 | 2 | 1 | 4 | 1 | 89 | 0 | 1.328 |
| | | | 61.8% | 29.2% | 2.2% | 1.1% | 4.5% | 1.1% | 100.0% | 0.0% | |
| Q13 | (13) この授業で、「言語力」が向上した。 | 2.8 | 29 | 18 | 18 | 4 | 7 | 13 | 89 | 0 | 2.065 |
| | | | 32.6% | 20.2% | 20.2% | 4.5% | 7.9% | 14.6% | 100.0% | 0.0% | |
| Q14 | (14) この授業で、「思考・解決力」が向上した。 | 1.9 | 40 | 30 | 10 | 2 | 5 | 1 | 88 | 1 | 1.351 |
| | | | 44.9% | 33.7% | 11.2% | 2.2% | 5.6% | 1.1% | 98.9% | 1.1% | |
| Q15 | (15) この授業で、「共生・協働する力」が向上した。 | 2.2 | 41 | 17 | 15 | 6 | 4 | 5 | 88 | 1 | 1.748 |
| | | | 46.1% | 19.1% | 16.9% | 6.7% | 4.5% | 5.6% | 98.9% | 1.1% | |
| Q16 | (16) この授業で、「創造・発信力」が向上した。 | 2.2 | 32 | 28 | 17 | 2 | 4 | 5 | 88 | 1 | 1.598 |
| | | | 36.0% | 31.5% | 19.1% | 2.2% | 4.5% | 5.6% | 98.9% | 1.1% | |



Ⅱ 2021年度「大学院生による教育評価アンケート」実施報告

1. 実施目的

「大学院生による教育評価アンケート」は、大学院における教育内容の改善及び教育プログラムの充実に役立てることを目的に実施している。

2. 実施方法

1) 実施期間

2021年12月10日(金)～2022年2月6日(日)

2) 調査対象者

調査対象者：全研究科の大学院生

3) 在籍者数・回収数・回収率

| 研究科 | 専攻科 | 在籍者数 (名) | 回答者数 (名) | 回答率 |
|---------|------------|-------------|-------------|--------|
| 人間文化研究科 | 応用英語専攻 | 2 | 2 | 100.0% |
| | 人間文化専攻 | 2 | 1 | 50.0% |
| | 生活福祉文化専攻 | 1 | 1 | 100.0% |
| | 研究科計 | 5 | 4 | 80.0% |
| 心理学研究科 | 発達・学校心理学専攻 | 0 | 0 | - |
| | 臨床心理学専攻 | 17 | 13 | 76.5% |
| | 心理学専攻 | 1 | 1 | 100.0% |
| | 研究科計 | 18 | 14 | 77.8% |
| 計 | | 23 | 18 | 78.3% |

4) 調査内容

調査項目については、FD委員会にて検討し、昨年度と同様の調査項目とした。冒頭で、回答者の属性(学年・所属研究科(専攻))を尋ねた。設問は選択式10問、自由記述3問とした。

調査項目

(1) 評価項目

- ① 学位取得のための道筋が明確に示されている
- ② 提示されたカリキュラムは納得のいくものである
- ③ 授業時間割はバランスよく配置されている
- ④ 提供される科目の授業内容が明確に示されている
- ⑤ 個々の授業はシラバスに準拠して、適切に進められている
- ⑥ 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている

- ⑦ オフィスアワー等、大学院生活を送る上で、教員に相談できる制度が整っている
- ⑧ 研究科（専攻）、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている
- ⑨ 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている
- ⑩ キャリア形成に関して、適切な指導、相談が行われている

選択式設問①～⑩は、以下の5件法で回答を求めた。

- 5：そう思う
- 4：どちらかと言えばそう思う
- 3：どちらとも言えない
- 2：どちらかと言えばそう思わない
- 1：そう思わない

自由記述

- ① ご自身のキャリア形成や大学による就職支援等について、ご意見、ご希望等があれば入力してください。
- ② あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「よかった点」を記入してください。
- ③ あなたが所属する研究科（専攻）の教育内容全体について「改善すべき点」を記入してください。

5) 実施手順

実施に当たっては、研究・情報推進課にてオンラインアンケートツール SurveyMonkey にアンケートを作成し、大学院生に回答を依頼するメールを送信した。

6) 結果の集計

研究・情報推進課にて集計し、集計結果シートを作成した。

7) 集計結果の配付と活用

- ・ 集計結果を研究科に報告し、各研究科における教育改善等に活用することを依頼した。
- ・ 課長会を通じて事務局の各部署に集計結果を配付し、教育環境等の改善に活用することを依頼した。

3. 「大学院生による教育評価アンケート」全学的観点から見た現状と今後の課題

大学院全体の結果に関して、選択式設問では、「Q6. 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている」が平均 4.6 ポイント、「Q1. 学位取得のための道筋が明確に示されている」「Q5. 個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている」「Q9. 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている」が平均 4.4 ポイントと、順に高い値を示している。4 ポイントを下回った項目は、「Q10. キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている」（平均 3.9 ポイント）の 1 項目であり、これについても、昨年度の 3.6 ポイントから 0.3 ポイント上昇しており、昨年度に比べて改善されている。研究科別でも、大学院全体の傾向と大きく異なる点は見受けられない。全体的に昨年度に比べ、高い評価が得られているといえる。

なお、今年度の特徴として、アンケートの回収率が大きく上昇している点が挙げられる。特に心理学研究科の回収率は、昨年度の 42.9%が 77.8%に、大学院全体では、昨年度 46.2%が 78.3%に上昇している。教育評価アンケートが大学院生の声を適切に反映するには、一定以上の回収率が確保される必要があるだろう。これまで行ってきた全体的な周知徹底に加え、授業等で趣旨説明や協力の呼びかけが有効であると考えられる。

文責：三好 智子（現代人間学部 心理学科 FD 委員）

■専攻

回答者数 18

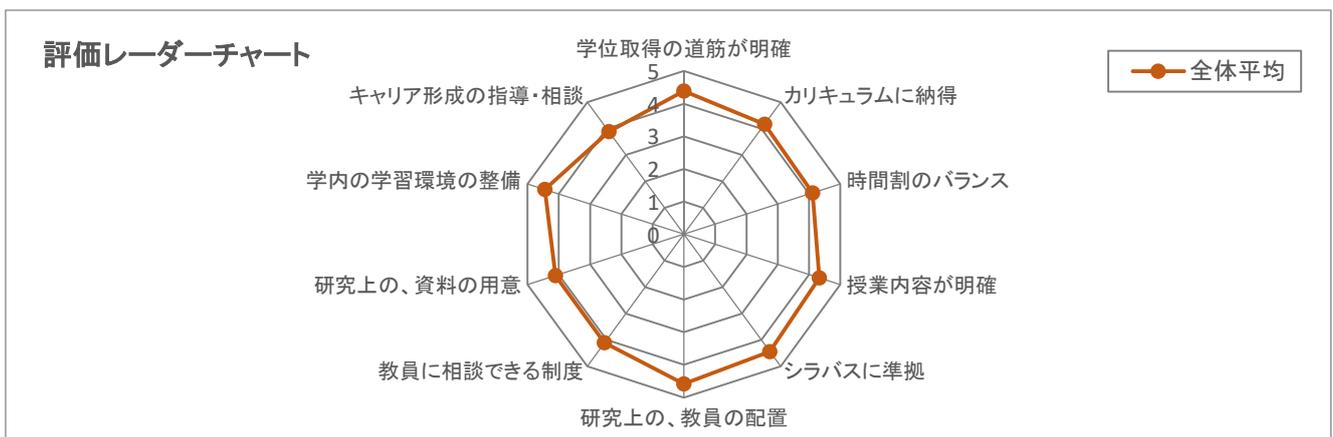
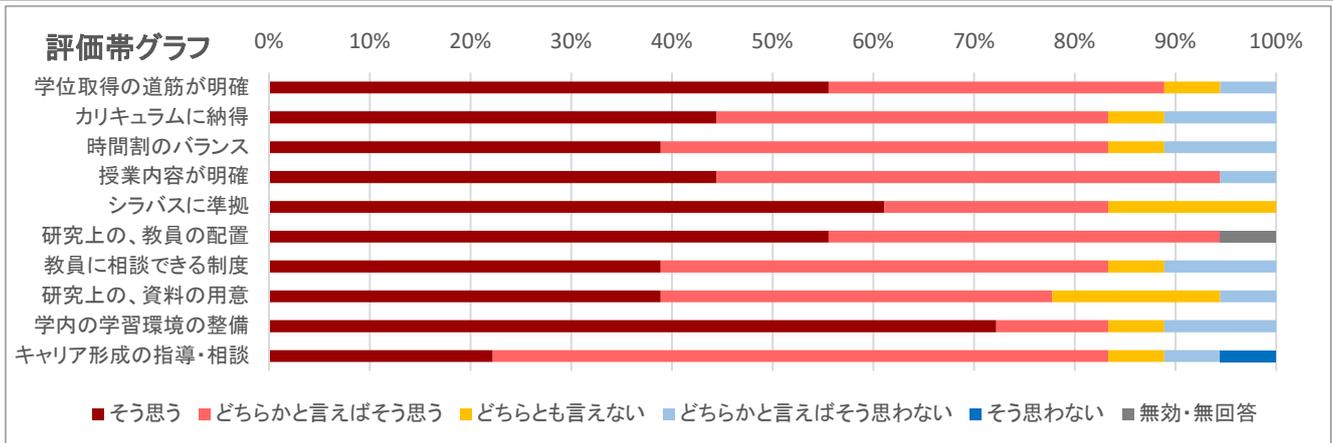
| 応用英語専攻 | 生活福祉文化専攻 | 人間文化専攻 | 発達・学校心理学専攻 | 臨床心理学専攻 | 心理学専攻 | 科目等履修生 | 計 |
|---------|----------|--------|------------|----------|--------|--------|----|
| 2 11.1% | 1 5.6% | 1 5.6% | 0 0.0% | 13 72.2% | 1 5.6% | 0 0.0% | 18 |

■学年

| 修士課程(M1) | 修士課程(M2) | 博士前期課程(M1) | 博士前期課程(M2) | 博士後期課程(D1) | 博士後期課程(D2) | 博士後期課程(D3) | 計 |
|----------|----------|------------|------------|------------|------------|------------|----|
| 2 11.1% | 2 11.1% | 8 44.4% | 5 27.8% | 0 0.0% | 1 5.6% | 0 0.0% | 18 |

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

| No. | 設問文 | 全体平均点 | 上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%) | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|-------|-----------------------|-------------|------------|------------|-----------|------|------|-------|
| | | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | |
| Q1 | 学位取得のための道筋が明確に示されている | 4.4 | 10 55.6% | 6 33.3% | 1 5.6% | 1 5.6% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.826 |
| Q2 | 提示されたカリキュラムは納得のいくものである | 4.2 | 8 44.4% | 7 38.9% | 1 5.6% | 2 11.1% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.957 |
| Q3 | 授業時間割はバランスよく配置されている | 4.1 | 7 38.9% | 8 44.4% | 1 5.6% | 2 11.1% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.936 |
| Q4 | 提供される科目の授業内容が明確に示されている | 4.3 | 8 44.4% | 9 50.0% | 0 0.0% | 1 5.6% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.745 |
| Q5 | 個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている | 4.4 | 11 61.1% | 4 22.2% | 3 16.7% | 0 0.0% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.762 |
| Q6 | 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている | 4.6 | 10 58.8% | 7 41.2% | 0 0.0% | 0 0.0% | 0 0.0% | 17 | 1 | 0.492 |
| Q7 | オフィサー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている | 4.1 | 7 38.9% | 8 44.4% | 1 5.6% | 2 11.1% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.936 |
| Q8 | 研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている | 4.1 | 7 38.9% | 7 38.9% | 3 16.7% | 1 5.6% | 0 0.0% | 18 | 0 | 0.875 |
| Q9 | 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている | 4.4 | 13 72.2% | 2 11.1% | 1 5.6% | 2 11.1% | 0 0.0% | 18 | 0 | 1.012 |
| Q10 | キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている | 3.9 | 4 22.2% | 11 61.1% | 1 5.6% | 1 5.6% | 1 5.6% | 18 | 0 | 0.994 |



■研究科

回答者数 4

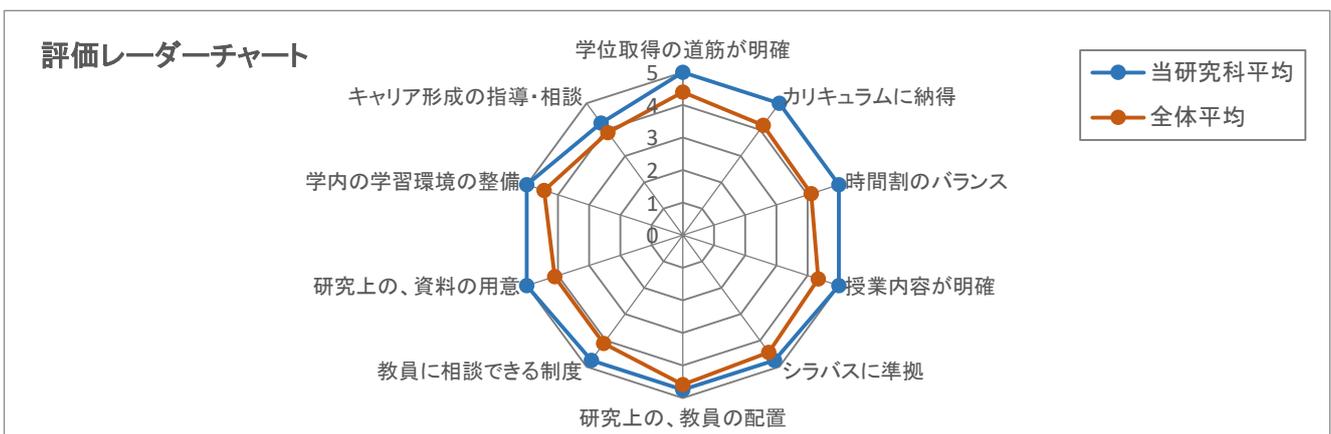
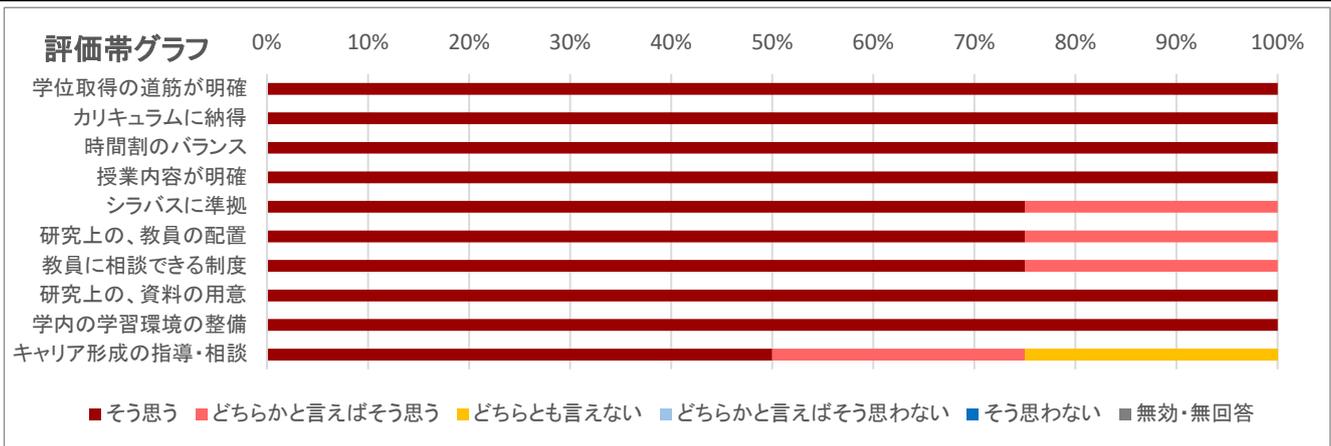
人間文化研究科

■学年

| 修士課程 (M1) | 修士課程 (M2) | 博士前期課程 (M1) | 博士前期課程 (M2) | 博士後期課程 (D1) | 博士後期課程 (D2) | 博士後期課程 (D3) | 計 |
|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---|
| 2 50.0% | 2 50.0% | 0 0.0% | 0 0.0% | 0 0.0% | 0 0.0% | 0 0.0% | 4 |

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

| No. | 設問文 | 全体平均点 | 当研究科平均点 | 上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%) | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|-------|---------|-----------------------|---|---|---|---|------|------|-------|
| | | | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | |
| Q1 | 学位取得のための道筋が明確に示されている | 4.4 | 5.0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.000 |
| Q2 | 提示されたカリキュラムは納得のいくものである | 4.2 | 5.0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.000 |
| Q3 | 授業時間割はバランスよく配置されている | 4.1 | 5.0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.000 |
| Q4 | 提供される科目の授業内容が明確に示されている | 4.3 | 5.0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.000 |
| Q5 | 個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている | 4.4 | 4.8 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.433 |
| Q6 | 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている | 4.6 | 4.8 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.433 |
| Q7 | オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている | 4.1 | 4.8 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.433 |
| Q8 | 研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている | 4.1 | 5.0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.000 |
| Q9 | 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている | 4.4 | 5.0 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.000 |
| Q10 | キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている | 3.9 | 4.3 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 0 | 0.829 |



■研究科

回答者数 14

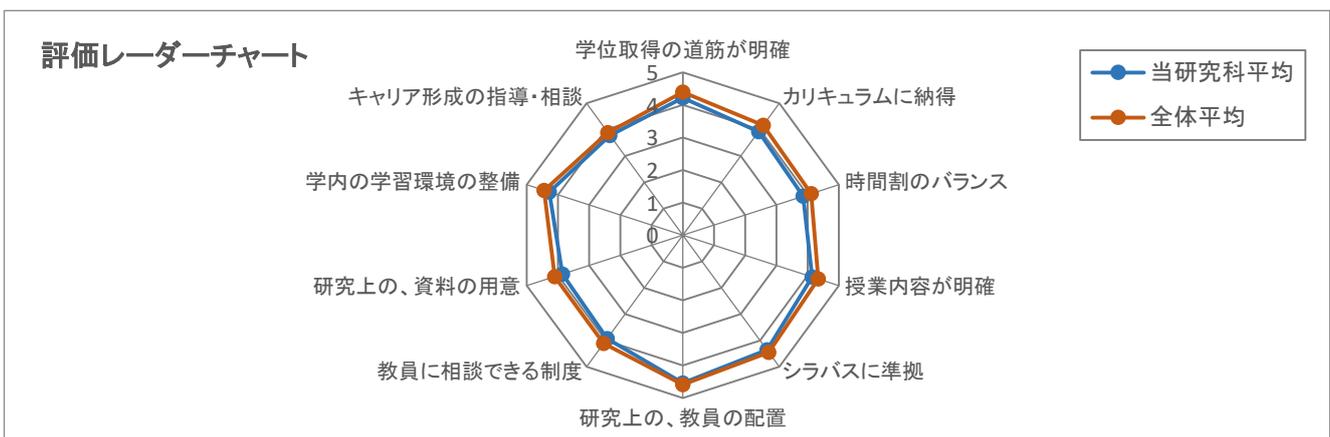
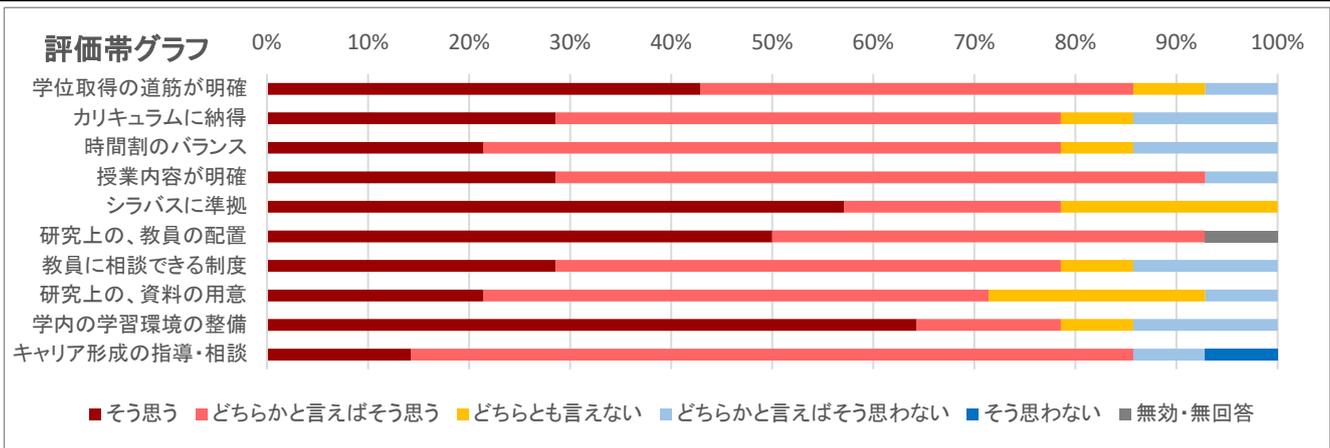
心理学研究科

■学年

| 修士課程 (M1) | 修士課程 (M2) | 博士前期課程 (M1) | 博士前期課程 (M2) | 博士後期課程 (D1) | 博士後期課程 (D2) | 博士後期課程 (D3) | 計 | | | | | | | |
|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|---|------|---|------|---|------|----|
| 0 | 0.0% | 0 | 0.0% | 8 | 57.1% | 5 | 35.7% | 0 | 0.0% | 1 | 7.1% | 0 | 0.0% | 14 |

5: そう思う 4: どちらかと言えばそう思う 3: どちらとも言えない 2: どちらかと言えばそう思わない 1: そう思わない

| No. | 設問文 | 全体平均点 | 当研究科平均点 | 上段: 回答数 / 下段: 回答率 (%) | | | | | 有効回答 | 無効回答 | 標準偏差 |
|-----|---|-------|---------|-----------------------|----|---|---|---|------|------|-------|
| | | | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 | | | |
| Q1 | 学位取得のための道筋が明確に示されている | 4.4 | 4.2 | 6 | 6 | 1 | 1 | 0 | 14 | 0 | 0.860 |
| Q2 | 提示されたカリキュラムは納得のいくものである | 4.2 | 3.9 | 4 | 7 | 1 | 2 | 0 | 14 | 0 | 0.961 |
| Q3 | 授業時間割はバランスよく配置されている | 4.1 | 3.9 | 3 | 8 | 1 | 2 | 0 | 14 | 0 | 0.915 |
| Q4 | 提供される科目の授業内容が明確に示されている | 4.3 | 4.1 | 4 | 9 | 0 | 1 | 0 | 14 | 0 | 0.742 |
| Q5 | 個々の授業はシラバスに準拠して適切に進められている | 4.4 | 4.4 | 8 | 3 | 3 | 0 | 0 | 14 | 0 | 0.811 |
| Q6 | 研究を進めていく上で、必要な指導教員が適切に配置されている | 4.6 | 4.5 | 7 | 6 | 0 | 0 | 0 | 13 | 1 | 0.499 |
| Q7 | オフィスアワー等、大学院生活を送る上で教員に相談できる制度が整っている | 4.1 | 3.9 | 4 | 7 | 1 | 2 | 0 | 14 | 0 | 0.961 |
| Q8 | 研究科(専攻)、あるいは大学に、研究を進めていく上で、必要な図書、関連資料が用意されている | 4.1 | 3.9 | 3 | 7 | 3 | 1 | 0 | 14 | 0 | 0.833 |
| Q9 | 自習室、研究設備等、学内の学習環境は十分に整備されている | 4.4 | 4.3 | 9 | 2 | 1 | 2 | 0 | 14 | 0 | 1.097 |
| Q10 | キャリア形成や資格取得に関して適切な指導、相談が行われている | 3.9 | 3.8 | 2 | 10 | 0 | 1 | 1 | 14 | 0 | 1.013 |



Ⅲ 2021 年度「オープンクラス」実施報告

1. 実施概要

オープンクラスの目的は、教員が互いの授業を参観し授業方法に関する知識や技能を共有することで、教員の資質を開発し、授業をより質の高いものとすることである。本学では 2011 年度より毎年趣向を変えて実施し、今年は 11 回目となる。

2021 年度前期は、各学科で選定した主に「1 年次生を対象とした授業」をオープンクラスの対象とした。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全学でオンライン授業が実施されていたことから、対面授業の参観ではなく、すでに実施済みのオンデマンド授業の映像や教材を視聴する形式で実施した。

後期は、学生が「演習形式で活動的に取り組む対面授業」を各学科で選定し、1 授業あたり 30～40 分程度の映像を視聴する形式で実施した。映像は、研究・情報推進課職員が撮影して作成した。

前期、後期とも映像の配信、視聴には、Microsoft Stream を使用した。Microsoft Forms を利用して参観した授業についての感想や助言（コメントシート）を提出してもらった。その後、その内容を授業担当教員へフィードバックした。また、全コメントを学科会議などで委員が報告し共有した。

2021 年度「オープンクラス」実施状況

| | 実施期間 | 参観者コメントシート ^{注)} | |
|----|---|--------------------------|------|
| | | コメント数 | 参加者数 |
| 前期 | 2021 年 7 月 12 日(月) ～8 月 31 日(火) | 57 | 44 |
| 後期 | 2021 年 12 月 10 日(金) ～2022 年 1 月 31 日(月) | 43 | 40 |

注) 複数の参観をし、それぞれのコメントシートを提出した参加者がいるためや、参加はしたがコメントシートを提出していないものがあるため、コメント数と参加者数は同数ではない。

2021 年度前期「オープンクラス」授業科目一覧

| | 科目区分 | 授業名 | 担当教員 | 参観方法、参照資料等 |
|---|--------------------|-----------------------------------|---|--|
| 1 | 英語英文学科 専門教育科目 | 英語英文学基礎演習 I (A, B, C, D, E, F) | 英語英文学科 小山 哲春教授、大川 淳准 教授、田口 茂樹教授、木島 菜菜子講師、喜多 容子准 教授、東郷 多津准教授 | Lecture 10 「適切な 議論の仕方 (Logos : ロゴス) とサポート」 (合同講義) |
| 2 | 英語英文学科 専門教育科目 | 英語キャリア戦略 | 英語英文学科 須川 いずみ教授 | 第 11 回「英語で語る 日本」嶋本浩子先生 (本学非常勤講師・通 訳案内士) ご担当回 |
| 3 | 国際日本文化学科 専門教育科目 | 日本語コミュニケーション I | 国際日本文化学科 蜂矢 真弓講師 | 第 11 回「案内メール の作成②」 |
| 4 | 生活環境学科 専門教育科目 | 生活環境基礎演習 I | 生活環境学科 大風 薫准教授、佐藤 純教 授、藤原 智子教授、矢島 | 第 7 回 「情報リテラシー」 |

| | | | | |
|---|------------------|----------|---|--|
| | | | 雅子講師、安川 涼子講師 | |
| 5 | 生活環境学科 専門教育科目 | 住居学概論 | 生活環境学科 竹原 広実教授 | 第13回 「住まいの法律」 |
| 6 | 心理学科 専門教育科目 | 心理学基礎演習Ⅰ | 心理学科 伊藤 一美教授、薦田 未央 准教授、村松 朋子准教授、 後藤 伸彦講師 | ・6-1: テーマC「レポ ートを書こう」 ・6-2: テーマD「商品 テスト」 |
| 7 | 共通教育科目 | 身近な自然科学 | こども教育学科 小川 博士准教授 | ・第7回 「生物多様性」①～③ ・第15回おまけ 「街中化石フィールド ワーク動画」 |

2021年度後期「オープンクラス」授業科目一覧

| | 科目区分 | 授業名 | 担当教員 | 参観方法、参照資料等 |
|---|--------------------|-----------------------|-----------------------------|--|
| 1 | 英語英文学科 専門教育科目 | Advanced Speaking I A | 英語英文学科 Steven Herder 准教授 | 第9回 対面授業の映像を視聴 |
| 2 | 国際日本文化学科 専門教育科目 | 漢文学特講 | 国際日本文化学科 朱 鳳教授 | 杜甫の詩を読む 対面授業の映像を視聴 |
| 3 | 生活環境学科 専門教育科目 | 生活環境基礎演習Ⅱ | 生活環境学科 安川 涼子講師 | 「装う」 羊毛の特徴を知る 対面授業の映像を視聴 |
| 4 | 生活環境学科 専門教育科目 | 生活環境基礎演習Ⅱ | 生活環境学科 牛田 好美教授 | 「装う」 身体形態の理解とド レスデザイン 対面授業の映像を視聴 |
| 5 | 生活環境学科 専門教育科目 | 生活環境基礎演習Ⅱ | 生活環境学科 矢島 雅子講師 | 「ささえる」 車いす体験 対面授業の映像を視聴 |
| 6 | 心理学科 専門教育科目 | 心理学基礎演習Ⅱ | 心理学科 松島 るみ教授 | テーマC「新聞記事 をもとに現代社会の 動向について話し合 おう」 対面授業の映像を視聴 |
| 7 | こども教育学科 専門教育科目 | 特別支援教育実習事前 事後指導 | こども教育学科 大田 容次准教授 | 第14回 「実習後のリフレク ション」 対面授業の映像を視聴 |

2. 現状と今後の課題

今回のオープンクラスを企画する際、以下の点を考慮して計画した。それは、コロナ感染症まん延防止等重点措置の発令によって対面授業の実施日が不明確であることから、委員会でオープンクラス日程の調整が難しいこと、個々の授業の専門的な内容に興味をもってもらう参観ではなく、授業改善や学習効果を高めるための参観となるような工夫が必要であることを再確認した。その上で、今年度前期のオープンクラスは、各学科の「初年次教育（1年次生が受講する科目）」に焦点を当て、他学科の授業を参観してもらうことを目的とした。そして、対面授業を教室で参観する方法を取りやめ動画配信とし、例年よりも期間を長くし、8月の夏季期間にも配信する方法を試みた。

後期のオープンクラスでは、前期の利点を生かしつつ、1～2年次生への演習を伴う授業を候補とすることにした。これは、対面授業を実施する際、グループワークの方法、机の配置、教員の働きかけ、学生の動きなどの方法を視聴することを目的としたいと考えて実施した。また前期同様に実施期間中に年末の休暇期間を含め、視聴期間にゆとりをもたせて実施した。

前期・後期ともに7件ずつの授業が公開され、参加者数は前期44名、後期40名であった。これは専任教員の約65%（前期）、59%（後期）に当たる。動画での配信は、授業期間が終わっても参観できること、教員は多忙な学期末の時期を避けて参観できることなどのメリットを生み出したといえる。期間を長くした結果、その期間中に学科会議が1～2回行われることを利用して、参観を促す依頼をすることもできた。

次に、他学科の1年次生を対象とした必修または選択科目の参観（視聴）は、各学科の初年次教育について学科を超えて確認しあう機会を提供したと考えられる。1年次から4年次までの一貫した教育を目指す本学にとっては、初年次教育に対する意識も高く、委員会が設定した目標は受け入れられ、概ね好評であったと考えられる。

<参観コメントより抜粋>

「・・・このところの実施形態である、コンテンツ（動画や資料）を、一定の期間に各自で視聴する形でのオープンクラスは、興味のあるクラスに確実に参加できる、繰り返し視聴できる、といったメリットがあり、この形で今後も続けて貰いたい。また、以前のようにすごくたくさんさんのクラス（原則、すべてのクラス）を一斉に公開しても、参加する側はリストを見て参加できるクラスを選ぶだけでも時間と手間がかかり、負担感があった。今回のように、数個の授業に絞って公開されると、視聴する側には選びやすく負担も少ないので、このような形での実施が良いと思います。」

「オンラインでのオープンクラスは時間・場所の制限なく多くの教員が参観可能なため、よい方法だ」

「他学科の基礎演習の内容が参考になってとても良かったです。」

「心理学科の基礎演習の内容を大学（教務課）で買い取って（授業を作成した先生の労働に対する対価を支払うためです）、全学共通の教材とされてはいかがでしょうか。お二人の先生の授業動画から、私の学科は（少なくとも私の基礎演習でのクラスでは）、教え方がまだまだ足りないなど痛感させられました。」

次に、オープンクラスは、前期・後期ともに参加者には概ね好評であったが、いくつかの課題も明らかとなった。

1つ目の課題は、学科によって差があるものの参加者割合の低さである。期間最終週になっても参加者割合が5割に満たない学科がみられた。次年度からのFD委員は学部で一人のため、学部長、学科主任の先生からの呼びかけなど、学部学科のリーダーによる協力が今後必要になろう。

2つ目は、効果的な授業コンテンツであると評価されたコンテンツの利用についての検討である。参加者からのコメントでは、「配信された基礎演習の内容を大学（教務課）で買い取って全学共通の

教材としてはどうか」との意見があり、特に、初年次教育においては学科を超えてどのように利用可能かといった具体策の検討が必要であろう。

3つ目は、どのような授業を提供するかである。もちろん、すべての授業を提供するという方法は選択肢の多さという点でメリットもあるが、今回の参加者のコメントでは、これを否定する意見もみられた。オープンクラスへの授業提供や参加が気軽に行えるような工夫と教員間の意思共有が必要であろう。主催者（FD委員会）側はどのような授業を共有し参考としてもらいたいかという目標を明確にし、検討して実施する必要があるだろう。参加者からは、「学生の評価の高い授業というのを見てみたい」というコメントもあり、この点については次回委員会に委ねたい。

4つ目は、動画視聴における教員側の視聴環境である。参加者コメントからは、「声が聴きとれなかった」「スライドが文字化けしていた」などがあり、委員会や事務局ではこの原因を解決しておき、事前により良い環境で視聴してもらえる方法やその情報を発信しておくとういだろう。

以上、2021年度のFD委員会が実施したオープンクラスについて概観し、メリットや課題の抽出によってこの活動の評価を行った。本学の教育の質向上に向けて、オープンクラスが有効に利用、活用されることを願っている。

文責: 加藤 佐千子 (FD委員長 / 現代人間学部 福祉生活デザイン学科 FD委員)

IV 2021年度 FD研修会 実施報告

1. 実施概要

2021年度はFD委員会において以下のFD研修会を企画し実施した。

テーマ：本学の情報教育の現状および本学学生のICTスキルの到達度を理解・共有し今後の教育改善に繋げる

日時：2022年2月16日（水）10：30～12：00

講師：吉田 智子 教授（ND教育センター）

開催方式：オンライン（Zoom）

参加者数：70名（専任教員62名、職員8名）

概要：

研修の前半は、研修テーマに沿って、以下の3点についてND教育センター吉田智子教授にご講演いただいた。

- (1) 本学の情報教育の歴史と現状
- (2) 入学時のICTスキルレベルに関して
- (3) 情報教育の方向性と課題

後半は、上記の内容を踏まえて、次の(1)、(2)について、グループディスカッションを行った。

(1) 本学の学生のICT活用スキルの課題と対処法（各教員が担当する授業で感じる課題、課題解決のために実施している方策、今後実施したいことなど）、

(2) 情報関連授業等において学生に教えるべき具体的な項目

各グループのディスカッションでは、学生のICTスキルや情報モラルの現状、オンライン授業及び本学の情報環境における課題、改善案等について話し合われた。ディスカッションの内容は、グループごとに報告としてまとめられ、本学の教育の質向上につながる多くの提案が出された。

上記のほかに、以下の研修会がND教育センター主催、FD委員会共催で開催された。

1. 今後の授業デザインを考えるワークショップおよびシラバス作成説明会

日時：2021年9月22日（水）10：45～12：15

開催方式：オンライン（Zoom）

参加者数：97名（専任教員：52名、非常勤教員：31名、職員：13名、不明：1名）

内 容：

(1) 今後の授業デザインについて

- ①「大学等における遠隔授業の取扱いについて」（小林 忍 教育支援部長）
- ②学生・教員のアンケート結果から見える「今後の授業に活かせる授業方法のポイント」について（教務委員会委員長）

(2) ワークショップ（コーディネーター ND教育センター長 神月 紀輔 教授）

- ①授業実践紹介
心理学科 後藤 伸彦 講師
国際日本文化学科 吉田 朋子 准教授
生活環境学科 中村 久美 学長

②ディスカッションおよび質疑（Zoomのチャット機能を使用）

(3) シラバス作成のポイント(宮木 美江 教務課長)

2. 勉強会:データサイエンス活用カフェ(第3回)

テーマ：“身近なデータで機械学習”～AIは「きのこの山」と「たけのこの里」を見分けられるか？～

日時：2021年11月2日（火）16：40～18：00

講師：金光 安芸子氏（ウルフラムリサーチ）、北村 美穂子氏（ウルフラムリサーチ）

コーディネーター：吉田 智子教授（ND教育センター）

場所：ユージニア館 3階 アクティブラーニングスペース

参加者数：23名（教職員21名、学生1名、その他1名（法人））

3.“文系” “女子” 小規模大学のデジタル活用と高大接続教育の未来

（DX推進の活動報告と数理・データサイエンス・AI教育の高大連携授業公開）

日時：2022年3月9日（水）14:45～17:30（受付開始 14:15）

参加者数：第1部 77名（ノートルダム女学院高校生徒63名、教職員14名）

第2部 42名

ノートルダム女学院高校生徒以外の参加者の合計：49名

第1部（関係者限定）

時間：14:45～16:15

内容：中村久美学長挨拶・吉田智子教授からの趣旨説明

AI・データサイエンスに関する高大連携授業公開

「身近なデータで機械学習～AIは「きのこの山」と「たけのこの里」を見分けられるか？」（ノートルダム女学院高校連携授業「みらいデザイン☆ハイスクール」）

講師：北村美穂子先生・金光安芸子先生（Wolfram Research、2022年度「AIとデータサイエンス」担当）

会場：ユージニア館3階 NDホール

第2部（ZOOM配信有 ウェビナー）

時間：16:30～17:30

内容：京都ノートルダム女子大学のDX推進計画および数理・データサイエンス・AI教育の取組

—DX推進計画（Plus-DX）

①ブレンド型授業モデル②学内個別学習環境整備③情報活用力プログラム—学部等関係課程「社会情報課程」設置構想

会場：ユージニア館3階 NDホール

講師：神月 紀輔 教授・松島 るみ 教授

ゲスト：ノートルダム学院小学校、ノートルダム女学院中学・高等学校の教員

終了後、情報交換会

会場：ユージニア館3階 アクティブラーニングスペース

2. 現状と今後の課題

FD研修会を実施するにあたり、今回の研修会のテーマにも掲げた、本学の情報教育の現状を把握すること、また、本学学生のICTスキルの到達度を理解し、共有すること、これらを踏まえて今後の教育改善に繋げることを目的として、研修会を企画・運営することとした。新型コロナウイルス感染症感染拡大が懸念されることから、対面での実施が困難であると判断し、Zoomによるオンライン開催となった。オンラインでの実施が功を奏したのか、結果として多数（70名）の教職員の参加があり、高い参加率となった。

本学の吉田智子教授（ND教育センター）を講師に招き、①本学の情報教育の歴史と現状②入学時のICTスキルレベルに関して③情報教育の方向性と課題の3点についてご講演いただき、後半のグループディスカッションにつながる、問題提起をしていただいた。討議の柱として、本学の学生のICT活用スキルの課題と対処法について（各教員が担当する授業で感じる課題、課題解決のために実施している方策、今後実施したいことなど）や、情報関連授業等において学生に教えるべき具体的な項目を示していただき、学科の垣根を越えた、活発なグループディスカッションが展開された。以下、グループディスカッションにおいて意見を取りまとめたものを抜粋する。

- ・卒論指導時や就職活動の際に、応募書類のメール送信時に添付ファイルの仕方がわからない、画像ファイルとPDFの区別がついていない、ExcelやWord、PowerPointなどのofficeソフトの基本操作が出来ても実際の活用方法を知らないなど
- ・情報開示の方法について掲示板で個人的な伝達（コロナ感染状況など）を書いてしまうなど
- ・LINEやメッセージのマナー問題（短文でリクエストが多い文面、教員に対する友達感覚）ビジネスメールマナーを学ぶ必要性がある
- ・自分で自由に使えるPCをもっておらず、スマホで参加している学生が多い
- ・学生の差が顕著で、対面であれば、対応も可能だが、オンラインだと対応が難しい
- ・レポート作成の大半はスマホかもしれないと予想され、PCを使わずスマホで作成も可能タイピングより、スマホでスワイプの方が早く長くよい文章が書ける学生が増加している音声入力もどこまでテクニックとして習得すべきか、代替手段は使ってよいのかなど
- ・参考文献を見ていると、適切とは思えないWebページを参照しているケースがあり、情報の良しあしの判断をどのように行うべきか、教育が必要。また、参考文献をあげればいわゆる「コピペ」をしてもよいと考えているケースもある。コピペの範囲が多く、適切な引用表現もできていないため、剽窃に抵触するものもある。引用の仕方もさらなる教育が必要

これらのように本学の学生の実態や課題が明らかとなる有意義なディスカッションとなった。また、課題や情報共有できる場をもつことができたのもこの研修会の成果であり、グループディスカッションそのものが他学科の教員や職員との交流の機会ともなった。

今後の課題として、学生同士や教員の支援体制を構築することが必要であると考えられるが、それをどのように構築するのか、学生が活用しやすい環境を整えることが重要である。さらに指導する側の教員も、多様なツールや複数のシステムの使い方をマスターし、利活用できるようにしなければならないとの意見もみられた。また、オンライン授業において、十分な教育成果が出ているのかどうかを検証する必要がある。リフレクションを繰り返しながら、本学教職員が足並みを揃えて、学生のICTスキルのボトムアップをめざして取り組んでいくことが望まれる。

文責：高田 佳孝（現代人間学部 こども教育学科 FD委員）

第27回FDフォーラム 報告集

第2分科会

オンライン授業における 学びの成果をいかに評価するか

報告者

| | |
|---------|------------------------|
| 多田 泰紘 氏 | 京都橘大学 経営学部 専任講師 |
| 後藤 伸彦 氏 | 京都ノートルダム女子大学 現代人間学部 講師 |
| 木村 裕 氏 | 滋賀県立大学 人間文化学部 准教授 |

コーディネーター

| | |
|---------|---------------------------|
| 石川 裕之 氏 | 京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 准教授 |
|---------|---------------------------|

オンライン授業における学びの成果をいかに評価するか

コーディネーター 石川 裕之

(京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 准教授)

本分科会のねらい

2019年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大にともないオンライン授業が急速に広まったことで、大学の授業形態は大きく変化し、学生の学習スタイルも変容した。当初、多くの大学教員が「対面授業のオンライン授業化」の対応に迫られたが、2年が経過した現在、オンライン授業という形態は大学教育に着実に根付いてきているように感じる。教員も学生も、オンラインで授業を実施したり受講したりすること自体に大きな支障を感じなくなっているのではないだろうか。しかしその一方で、学生の学びの様子をその場その時に直接把握することが困難なオンラインという授業形態において、定められた学習目標をどのように達成させるか、そのために学生の学習成果をどのタイミングでどのように評価していくかといった課題については、いまだ悩みを抱える教員も少なくないように思われる。そこで本分科会では、同時双方向型遠隔授業（講演1）、オンラインでの繰り返しアセスメントを取り入れた授業（講演2）、そして完全オンデマンド型授業（講演3）という3つのオンライン授業の実践事例について登壇者にご報告いただき、それを「呼び水」とすることで、「オンライン授業における学びの成果をいかに評価するか」という大学教育における今日的課題について参加者全員で考えることをねらいとした。

報告の概要

本分科会では3名の登壇者が20分ずつの講演をおこなったのち、休憩をはさんで40分の質疑応答がおこなわれた。各講演の概要は以下の通りである。なお、講演内容の詳細については後掲の講演資料を参照されたい。

講演1)「中規模私立大学における同時双方向型遠隔授業の実践と評価～1年生必修教養科目における取り組み～」(多田泰紘氏)

多田氏からは、1年生必修の教養教育科目である「ライティング基礎」を事例に、同時双方向型遠隔授業について実践報告があった。同授業は大学での学びや社会生活の基盤となる文章表現力を身につけさせることを目的としており、1クラスあたり学生25名程度で編成されている。各回の授業はTeamsと大学ポータルサイトを使って実施され、①前回の復習と課題や質問へのフィードバックをおこなう「冒頭」、②テキストを使用し知識・技能のレクチャーをおこなう「講義」、③テキストの練習問題やグループでの議論、添削・確認をおこなう「演習」の3つから構成されていた。「冒頭」においては、大学の様子やイベントを紹介したり、相互の通信状態を確認するために教員の合図でTeamsの「いいね」マークを押してもらったりと、学生の緊張をほぐし授業に参加しているという感覚を持たせるための工夫や受講に必要なアプリケーションの操作スキルを身につけさせるための工夫が盛り込まれていた。また、「教員→学生」という一方向になりがちな「講義」の時間をできるだけ短くし、学生が主体的に取り組む「演習」の時間を長くするといった工夫もなされていた。評価方法としては、「参加度」(27%)、「授業課題」(24%)、「レポート課題」(49%)が用いられていたが、授業がオンラインになったことで「参加度」に毎回の授業の講義内容や演習の報告を提出してもらったりフレクシオン課題が追加された。同授業においては、遠隔授業という形態の中で受講生の学習機会を保障し学習意欲を維持させるための様々な工夫が盛り込まれていた。たとえば病気や通信トラブル等で授業を欠席した者についても、

録画した授業映像をもとに欠席者用課題やリフレクション課題に取り組みさせることで出席者と同様に評価していた。また、課題を締切までに提出できなかった受講生についても、減点はするものの締切後 1 週間程度までは課題を受け取るといった配慮がなされていた。こうした取り組みの結果、受講生の約 7 割が全授業に出席し、約 7 割が授業課題をすべて提出し、約 9 割が中間・期末の両レポートを提出していた。なお、遠隔授業でうまくいったこととしては、学生の緊張を緩和し授業に参加しているという感覚を持たせるために雑談やアナウンスを取り入れたこと、「参加度」を評価するためにリフレクション課題を加えたこと、課題の提示を早めにおこなったこと、学習意欲を維持するために締切に遅れても課題を受け取ったことが挙げられた。また、対面授業にも取り入れられそうなこととして、意識して学生との会話の機会を増やすとともに説明の時間をできるだけ減らすこと、欠席者への対応や課題提出への配慮によって学生の学習意欲を維持することで学生の学習成果を評価可能な状態に持っていけるようサポートすることが挙げられた。

講演 2) 「オンライン繰り返しアセスメントによる学習目標到達の試み」(後藤伸彦氏)

後藤氏からは、共通教育科目である「暮らしの統計学」を事例に、オンラインでの繰り返しアセスメントを取り入れた授業についての実践報告があった。同授業の目的は学生に様々な統計手法を身につけさせることにある。同授業は、最高得点以外は最終的な成績評価 (evaluation) に反映されない繰り返しのアセスメント (assessment) の機会を設けることで学生のやる気を向上させ学習目標の到達が可能になるという仮説にもとづき、次のような非同期部分と同期部分を組み合わせたかたちで編成されていた。まず非同期部分としては、パワーポイントの PDF と動画によるオンデマンド型教材を用いて学生に学習させた上で、学習内容に関する小テストを manaba の小テスト・ドリル機能を用いて実施した。この際、小テストの提出上限を「無制限」に設定することで、学生は何回でも小テストにチャレンジすることができる。また小テストは、各受講生の最高得点のみが最終的な成績評価に反映される。なお、学生は小テスト提出後に各設問の回答の正誤を確認することができるが、正答を確認することはできない設定となっている。さらに manaba のアンケートや掲示板機能を使って受講生からの質問にも対応した。一方同期型としては、同授業の授業時間中は教員が教室に待機しており、希望する学生は対面での質問や Zoom での質問もできるようにしていた。学生の感想コメントや授業評価アンケートの結果からは、非同期部分では何度でも学び直すことができるという利点があり、一度では理解できなくても理解力・応用力がついていたり、高い集中力の学びにつながっていることがうかがえた。また、質問対応については、学生が困った際に素早く質問に答えるといったフィードバックが有効であったことがうかがえた。一方、同期部分については、対面・Zoom での質問対応によって学びにプラスの効果があった学生がいた反面、質問をうまくできない学生についてはこうした仕組みが効果的に働かなかったことも明らかになった。学生たちが実際にどのように小テストに取り組んでいったのかを分析したところ、授業日と締切日が最も提出回数が多く、平均提出回数は 4.1 回であった。また、多くの学生が最終的に 8 割以上の最高得点に到達するなど、何度でも小テストにチャレンジできるという繰り返しのアセスメントが有効活用されていた。学生の感想コメントからも、一度きりのテストでは成功の理由を運やテストの簡単さに求めるのに対し、複数回受けられるテストでは成功の理由を自らの努力や能力と捉え、学びの喜びの増幅につながっていることがうかがえた。一方で、テストの最高得点が 6 割を超えなかった学生 (56 名中 12 名) を見てみると、3 回ほどのチャレンジで諦めてしまったと考えられるケースや何回チャレンジしても点数が伸びなかったケースがあった。これらの学生は締切直前や締切当日に初めて小テストを受けており、すでに教員に質問する時間的余裕もなく、繰り返しのアセスメントと同期型の

質問対応という学びの機会を有効に活用できていないことがわかった。以上の分析の結果、繰り返しのアセスメントの機会を設けることで学生のやる気を向上させ学習目標の到達が可能になるという仮説は支持されたといえた。その一方で、対面や Zoom での質問の機会を設けることで落ちこぼれる学生を最小限に抑えることができるのではないかという仮説については一部が支持されたにとどまり、こうした機会を有効活用できる学生がいる反面、自力学習ができない学生は小テストに取り組む時期が遅かったり、質問自体をうまくできなかったりと、質問の機会を有効に活用できず学びにつながらないケースも見られた。こうした学生については、対面指導への参加の義務付けといった対応も必要と考えられた。

講演 3) 「学習指導案の作成と改善のための力量形成をめざす授業の内容と評価実践—完全オンデマンド型授業における試み—」(木村裕氏)

木村氏からは、教員免許の取得をめざす学生が主に履修する「教育方法論」を事例に、完全オンデマンド型授業についての実践報告があった。同授業の受講生数は約 60 名で、すべての回が資料提示によるオンデマンド型で実施された。具体的には、教員が大学ポータルサイトにアップした資料をダウンロードして受講生各自で学習させ、期日までに課題を大学ポータルサイトに提出させた。また、受講生との個別のやりとりには電子メールが使用された。同授業の到達目標は、①自分なりの「めざす授業」「めざす教育活動」を計画し、実践し、改善することができるようになるための、基礎的な知識や技能を習得すること、②自分なりの暫定的な「めざす授業像」「めざす教育活動像」を確立し、それらをふまえて学習指導案を作成することができるようになること、③他者との議論を通して、自他の学習指導案を改善することができるようになることの 3 つである。同授業の評価対象は、原則としてこれらの到達目標の達成度を把握するためのものに限定していた。このため、授業への「参加度」等については評価対象に含めていなかった。評価に関する同授業の特徴は、複数の評価を組み合わせている点にある。具体的には、初回の授業でワークシートを課し受講生の既有知識や経験等を調べてその後の授業づくりに生かす「診断的评价」、提出されたワークシートや小レポートなどに関するフィードバックをおこなう「形成的評価」、さらに「まとめレポート」への取り組みを通して最終的な到達度を判断する「総括的评价」である。これらの評価のねらいは、受講生の学習状況の把握、およびそれらをふまえて修正をおこないながら授業を実施する点にあった。さらに、教員からのフィードバックをふまえて受講生に自身のワークシート等を再検討することを促す「自己評価」や、学生がお互いの学習指導案を検討し合う「相互評価」も組み込まれていた。「自己評価」と「相互評価」には、「自ら学び続けられる」学習者、そして「他者と学び合える」学習者の育成という意図が込められていた。なお、課題を評価する際にどういった点を重視するかを記した資料を初回の授業で配布し口頭でも説明していた。コロナ禍の下、その対応のために授業が対面からオンラインに変わると、「形成的評価」「自己評価」「相互評価」の 3 つをどのようにおこなうかといった課題が出てきた。オンデマンド型という授業形態では、授業中に教員が受講生に対し適宜フィードバックをしていったり、受講生同士が議論を通して学び合っていくといったことがむずかしくなるからである。そこで同授業ではオンライン化対応のために様々な工夫がおこなわれたが、その 1 つが学習指導案検討会(第 10 回の授業で実施)についての工夫であった。学習指導案検討会を対面でおこなっていた時には、それまでの授業の内容をふまえて各自が作成した学習指導案を持ち寄って 3~4 名のグループで検討し、検討会での指摘や気づきをふまえて自身の学習指導案を改善するといったかたちで進められていた。しかしオンデマンド型オンライン授業へ移行したのちは、検討に際して受講生に最低限意識してもらいたいポイント(形式面および内容面)を具体的に記したチェックリストを配布した上で、これにもとづいて自身の作成した学習指導案

を検討・改善することを課題とした。さらに、受講生同士の自主的・自発的な検討会実施も勧奨した。改善された学習指導案については、特にチェックリストに示された観点をどれだけふまえているかを重視して評価していた。さらに、オンライン化対応の一例として、レスポンスペーパー用の電子ファイルをあらかじめ受講生に配信しておき、随時メール等で質問を受け付けるとともに、質問のうち受講生全員で共有しておくべき内容についてはその後の回の授業プリントで紹介するといった工夫がなされていた。ただし、質問すること自体にハードルを感じるような学生はこうした仕組みを有効活用できないということも明らかになり、こうした学生への対応が今後の課題として提示された。

注：第2分科会における質疑応答の内容および各登壇者の報告資料については下記引用元を参照されたい。

引用元：大学コンソーシアム京都ウェブサイト「第27回FDフォーラム報告集 第2分科会」
<https://www.consortium.or.jp/wp-content/uploads/fd/40006/27thfdf-bunkakai02.pdf>

京都ノートルダム女子大学 国際言語文化学部 准教授 石川裕之

2021 年度 FD 委員会構成員

| | | |
|-----|------------------|---------------------|
| 委員長 | 加藤 佐千子 | (現代人間学部 生活環境学科) |
| 委員 | York Weatherford | (国際言語文化学部 英語英文学科) |
| 委員 | 石川 裕之 | (国際言語文化学部 国際日本文化学科) |
| 委員 | 三好 智子 | (現代人間学部 心理学科) |
| 委員 | 高田 佳孝 | (現代人間学部 こども教育学科) |
| 委員 | 谷 愛子 | (研究・情報推進課課長) |
| 事務局 | 研究・情報推進課 | |

京都ノートルダム女子大学
2021 年度 FD 報告書

2022 年 5 月 1 日発行

編 集 京都ノートルダム女子大学
FD 委員会 (事務局：研究・情報推進課)

発 行 京都ノートルダム女子大学
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町 1 番地
TEL (075) 781-1173 FAX (075) 706-3707
ホームページ <http://www.notredame.ac.jp>



京都ノートルダム女子大学